

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日                      2 0 0 3 年    5 月 2 2 日  
Date of Application:

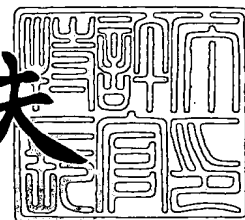
出 願 番 号                      特 願 2 0 0 3 - 1 4 4 7 5 5  
Application Number:  
[ST. 10/C]:                      [ J P 2 0 0 3 - 1 4 4 7 5 5 ]

出      願      人                      コニカミノルタオプト株式会社  
Applicant(s):

2 0 0 4 年    2 月 1 6 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 DKY01396

【提出日】 平成15年 5月22日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G02B 13/18

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都八王子市石川町 2 9 7 0 番地 コニカオプト株式会社  
                        会社内

    【氏名】 木村 徹

【特許出願人】

    【識別番号】 303000408

    【氏名又は名称】 コニカオプト株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100090033

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 荒船 博司

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 027188

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 光ピックアップ装置、光情報記録再生装置、エキスパンダーレンズ、及びカップリングレンズ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 450 nm以下の第1波長 $\lambda_1$ の第1光束を射出する第1光源及び前記第1波長 $\lambda_1$ の1.3倍より長い第2波長 $\lambda_2$ の第2光束を射出する第2光源の少なくとも2種類の光源と、前記2種類の光源から射出された光束を記録密度が互いに異なる少なくとも2種類の光ディスクの情報記録面上に集光するための対物レンズユニットと、前記2種類の光源と前記対物レンズユニットとの間であって前記第1光束及び第2光束の共通光路中に配置された色収差補正用光学ユニット及び球面収差補正用光学ユニットと、を有する光ピックアップ装置において、

前記球面収差補正用光学ユニットは、その構成レンズ群のうち少なくとも1つのレンズ群と前記対物レンズユニットとの間隔を可変調整することで、前記対物レンズユニットへの入射光束のマージナル光線の傾角を変化させると共に、

前記色収差補正用光学ユニットは、微細な段差により分割された複数の輪帯からなる回折構造が形成された回折面を少なくとも1つ有するレンズ群を少なくとも1つ有し、前記段差の光軸方向の深さは、前記第1光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数に対して、前記第2光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数がより低次数となるように設計されていることを特徴とする光ピックアップ装置。

【請求項 2】 前記球面収差補正用光学ユニットと前記色収差補正用光学ユニットは、同一の光学ユニットであることを特徴とする請求項 1 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 3】 前記球面収差補正用光学ユニットは、正レンズ群と負レンズ群とから構成されるエキスパンダーレンズであることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 4】 前記球面収差補正用光学ユニットは、前記2種類の光源から

射出された各光束の発散角を変換して前記対物レンズユニットに導くためのカップリングレンズであることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 5】 450 nm 以下の第 1 波長  $\lambda_1$  の第 1 光束を射出する第 1 光源及び前記第 1 波長  $\lambda_1$  の 1.3 倍より長い第 2 波長  $\lambda_2$  の第 2 光束を射出する第 2 光源の少なくとも 2 種類の光源と、前記 2 種類の光源から射出された光束を記録密度が互いに異なる少なくとも 2 種類の光ディスクの情報記録面上に集光するための対物レンズユニットと、前記 2 種類の光源と前記対物レンズユニットとの間であって前記第 1 光束及び第 2 光束の共通光路中に配置された色収差補正用光学ユニット及び球面収差補正用光学ユニットと、を有する光ピックアップ装置において、

前記球面収差補正用光学ユニットは、電極と液晶分子層とが交互に積層された構造を有し、前記電極に所定の電圧を印可して、前記液晶分子層の屈折率分布を変化させることが可能であるように構成されると共に、

前記色収差補正用光学ユニットは、微細な段差により分割された複数の輪帯からなる回折構造が形成された回折面を少なくとも 1 つ有するレンズ群を少なくとも 1 つ有し、前記段差の光軸方向の深さは、前記第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数に対して、前記第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数がより低次数となるように設計されていることを特徴とする光ピックアップ装置。

【請求項 6】 前記対物レンズユニットは前記球面収差補正用光学ユニットと一体となってトラッキングを行うことを特徴とする請求項 5 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 7】 前記球面収差補正用光学ユニットは、前記第 1 波長  $\lambda_1$  と前記第 2 波長  $\lambda_2$  の波長差に起因して前記対物レンズユニットで発生する球面収差を補正することを特徴とする請求項 1～6 のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 8】 前記球面収差補正用光学ユニットは、前記第 1 波長  $\lambda_1$  が土

10nmの範囲内で変化した場合に、前記対物レンズユニットの色収差に起因して発生する球面収差を補正することを特徴とする請求項1～7のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置。

【請求項9】 前記2種類の光ディスクのうち、記録密度が最も高い光ディスクを第1光ディスクとしたとき、前記第1光ディスクはその情報記録面上に第1保護層を有し、前記球面収差補正用光学ユニットは、前記第1保護層の厚さ誤差に起因して発生する球面収差を補正することを特徴とする請求項1～8のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置。

【請求項10】 前記2種類の光ディスクのうち、記録密度が最も高い光ディスクを第1光ディスクとしたとき、前記第1光ディスクは前記光源側から順に、光学的透明層と情報記録面とが交互に積層された多層構造を有し、前記多層構造において前記光源に最も近い情報記録面から順に、第1情報記録面、第2情報記録面、・・・、第n情報記録面としたとき、前記球面収差補正用光学ユニットは、前記対物レンズが前記第i情報記録面から前記j情報記録面にフォーカスジャンプする際に発生する球面収差を補正することを特徴とする請求項1～9のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置。

但し、iは $1 \leq i \leq n$ を満たす任意の整数であり、jは $1 \leq i \leq n$ を満たし、且つiとは異なる任意の整数である。

【請求項11】 前記2種類の光ディスクのうち、記録密度が最も高い光情報記録媒体を第1光ディスクとし、前記第1光ディスクはその情報記録面上に第1保護層を有し、前記2種類の光ディスクのうち、前記第1光ディスクよりも記録密度が低い光ディスクを第2光ディスクとしたとき、前記第2光ディスクはその情報記録面上に前記第1保護層よりも厚い第2保護層を有し、前記球面収差補正用光学ユニットは、前記第1保護層と前記第2保護層の厚さの違いに起因して発生する球面収差を補正することを特徴とする請求項1～10のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置。

【請求項12】 前記対物レンズユニットはプラスチックレンズを少なくとも1つ有し、前記球面収差補正用光学ユニットは前記対物レンズユニットに含まれるプラスチックレンズの環境温度変化に伴う屈折率変化、及び／又は、前記プ

ラスチックレンズ内の温度分布に伴う屈折率分布に起因する球面収差を補正することを特徴とする請求項 1 ～ 1 1 のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 1 3】 前記 2 種類の光ディスクのうち、記録密度が最も高い光情報記録媒体を第 1 光ディスクとし、前記第 1 光ディスクはその情報記録面上に第 1 保護層を有し、前記 2 種類の光ディスクのうち、前記第 1 光ディスクよりも記録密度が低い光ディスクを第 2 光ディスクとし、前記第 1 光ディスクに対して情報の記録及び／又は再生を行う際の前記対物レンズユニットの倍率を第 1 倍率とし、前記第 2 光ディスクに対して情報の記録及び／又は再生を行う際の前記対物レンズユニットの倍率を第 2 倍率としたとき、前記第 1 倍率と前記第 2 倍率は互いに異なり、前記球面収差補正用光学ユニットは、前記第 1 倍率と前記第 2 倍率との違いに応じて前記対物レンズユニットの物点位置を変化させることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 1 4】 前記第 2 波長  $\lambda_2$  は 6 0 0 n m から 7 0 0 n m の範囲内の波長であり、前記色収差補正用光学ユニットに前記第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_1$  とし、前記第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_2$  としたとき、前記回折次数  $n_1$  と前記回折次数  $n_2$  の組合せが、 $(n_1, n_2) = (2, 1), (3, 2), (4, 2), (5, 3), (6, 4), (7, 4), (8, 5), (10, 6)$  のいずれかであることを特徴とする請求項 1 ～ 1 3 のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 1 5】 前記第 1 波長  $\lambda_1$  及び前記第 2 波長  $\lambda_2$  とは異なる第 3 波長  $\lambda_3$  の第 3 光束を射出する第 3 光源を有し、前記色収差補正用光学ユニットは、前記第 1 光源乃至前記第 3 光源と前記対物レンズユニットとの間であって前記第 1 光束乃至前記第 3 光束の共通光路中に配置され、前記第 2 波長  $\lambda_2$  は 6 0 0 n m から 7 0 0 n m の範囲内、前記第 3 波長  $\lambda_3$  は 7 3 0 n m から 8 3 0 n m の範囲内の波長であり、前記色収差補正用光学ユニットに前記第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_1$  とし、前記第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_2$  とし、前記第 3 光束が入射した場合に発生する回折光

のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_3$  としたとき、前記回折次数  $n_1$  と前記回折次数  $n_2$  と前記回折次数  $n_3$  の組合せが、 $(n_1, n_2, n_3) = (2, 1, 1), (4, 2, 2), (6, 4, 3), (8, 5, 4), (10, 6, 5)$  のいずれかであることを特徴とする請求項 1～13 のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 16】 前記対物レンズユニットは、前記 2 種類の光ディスクのうち、所定の記録密度を有する光ディスクに対して情報の記録及び／又は再生を行うために使用される第 1 対物レンズと、前記所定の記録密度を有する光ディスク以外の光ディスクに対して情報の記録及び／又は再生を行うために使用される第 2 対物レンズの、少なくとも 2 種類の対物レンズと、これら対物レンズを選択的に切り替えるための対物レンズ切り替え手段と、から構成されることを特徴とする請求項 1～15 のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 17】 前記 2 種類の光ディスクのうち、記録密度が最も高い光ディスクを第 1 光ディスクとしたとき、前記第 1 光ディスクに対する情報の記録及び／又は再生を行う際の前記対物レンズユニットの開口数が 0.8 以上であることを特徴とする請求項 1～16 のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 18】 前記 2 種類の光ディスクのうち、記録密度が最も高い光ディスクを第 1 光ディスクとし、前記第 1 光ディスクの次に記録密度が高い光ディスク第 2 光ディスクとしたとき、前記第 1 光ディスクはその情報記録面上にその厚さが 0.07～0.13 mm の範囲内である第 1 保護層を有し、前記第 2 光ディスクはその情報記録面上にその厚さが 0.55～0.65 mm の範囲内である第 2 保護層を有し、前記第 1 光束を前記第 1 光ディスク及び第 2 光ディスクそれぞれの情報記録面上に集光することにより、前記第 1 光ディスク及び前記第 2 光ディスクに対する情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となっていることを特徴とする請求項 1～17 のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 19】 請求項 1～18 のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置を搭載し、前記光ディスクに対する情報の記録と前記光ディスクに記録された情報の再生とのうち、少なくとも一方を実行可能であることを特徴とする光情報記録再生装置。

【請求項 2 0】 請求項 3 に記載の光ピックアップ装置における球面収差補正用光学ユニットに適用可能であることを特徴とするエキスパンダーレンズ。

【請求項 2 1】 請求項 4 に記載の光ピックアップ装置における球面収差補正用光学ユニットに適用可能であることを特徴とするカップリングレンズ。

【請求項 2 2】 4 5 0 n m 以下の第 1 波長  $\lambda_1$  の第 1 光束を射出する第 1 光源及び前記第 1 波長  $\lambda_1$  の 1. 3 倍より長い第 2 波長  $\lambda_2$  の第 2 光束を射出する第 2 光源の少なくとも 2 種類の光源と、前記 2 種類の光源から射出された光束を記録密度が互いに異なる少なくとも 2 種類の光ディスクの情報記録面上に集光するための対物レンズユニットとの間であって、前記第 1 光束及び第 2 光束の共通光路中に配置され、正レンズ群と負レンズ群とから構成されるエキスパンダーレンズにおいて、

前記エキスパンダーレンズは、微細な段差により分割された複数の輪帯からなる回折構造が形成された回折面を少なくとも 1 つ有するレンズ群を少なくとも 1 つ有し、前記段差の光軸方向の深さは、前記第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数に対して、前記第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数がより低次数となるように設計されていると共に、その構成レンズ群のうち少なくとも 1 つのレンズ群と前記対物レンズユニットとの間隔を可変調整することで、前記対物レンズユニットへの入射光束のマージナル光線の傾角を変化させることを特徴とするエキスパンダーレンズ。

【請求項 2 3】 前記第 2 波長  $\lambda_2$  は 6 0 0 n m から 7 0 0 n m の範囲内の波長であり、前記第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_1$  とし、前記第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_2$  としたとき、前記回折次数  $n_1$  と前記回折次数  $n_2$  の組合せが、 $(n_1, n_2) = (2, 1)$ 、 $(3, 2)$ 、 $(4, 2)$ 、 $(5, 3)$ 、 $(6, 4)$ 、 $(7, 4)$ 、 $(8, 5)$ 、 $(10, 6)$  のいずれかであることを特徴とする請求項 2 2 に記載のエキスパンダーレンズ。

【請求項 2 4】 前記エキスパンダーレンズの構成レンズのうち、前記回折



面を有する構成レンズの前記第1波長 $\lambda_1$ における屈折率が1.5～1.6の範囲内であると共に、前記段差のうち光軸に最も近い段差の光軸方向の深さ $d_0$ が次式(1)～(8)のいずれか1つを満たすことを特徴とする請求項23に記載のエキスパンダーレンズ。

$$1. \quad 2 \mu\text{m} < d_0 < 1.7 \mu\text{m} \cdots (1)$$

$$1. \quad 9 \mu\text{m} < d_0 < 2.6 \mu\text{m} \cdots (2)$$

$$2. \quad 6 \mu\text{m} < d_0 < 3.2 \mu\text{m} \cdots (3)$$

$$3. \quad 3 \mu\text{m} < d_0 < 4.2 \mu\text{m} \cdots (4)$$

$$4. \quad 4 \mu\text{m} < d_0 < 5.0 \mu\text{m} \cdots (5)$$

$$4. \quad 7 \mu\text{m} < d_0 < 5.7 \mu\text{m} \cdots (6)$$

$$5. \quad 6 \mu\text{m} < d_0 < 6.5 \mu\text{m} \cdots (7)$$

$$6. \quad 9 \mu\text{m} < d_0 < 8.1 \mu\text{m} \cdots (8)$$

【請求項25】 前記エキスパンダーレンズは、前記第1光源、前記第2光源、及び前記第1波長 $\lambda_1$ 及び前記第2波長 $\lambda_2$ とは異なる第3波長 $\lambda_3$ の第3光束を射出する第3光源の3種類の光源と、前記3種類の光源から射出された光束を記録密度が異なる少なくとも3種類の光ディスクの情報記録面上に集光するための対物レンズユニットとの間であって、前記第1光束乃至前記第3光束の共通光路中に配置され、前記第2波長 $\lambda_2$ は600nmから700nmの範囲内の波長であり、第3光源から射出される第3光束の第3波長 $\lambda_3$ は730nmから830nmの範囲内の波長であり、前記第1光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を $n_1$ とし、前記第2光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を $n_2$ とし、前記第3光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を $n_3$ としたとき、前記回折次数 $n_1$ と前記回折次数 $n_2$ と前記回折次数 $n_3$ の組合せが、 $(n_1, n_2, n_3) = (2, 1, 1)$ 、 $(4, 2, 2)$ 、 $(6, 4, 3)$ 、 $(8, 5, 4)$ 、 $(10, 6, 5)$ のいずれかであることを特徴とする請求項22に記載のエキスパンダーレンズ。

【請求項26】 前記エキスパンダーレンズの構成レンズのうち、前記回折面を有する構成レンズの前記第1波長 $\lambda_1$ における屈折率が1.5～1.6の範

囲内であると共に、前記段差のうち光軸に最も近い段差の光軸方向の深さ  $d_0$  が次式 (9) 乃至 (13) のいずれか 1 つを満たすことを特徴とする請求項 25 に記載のエキスパンダーレンズ。

1.  $2\ \mu\text{m} < d_0 < 1.7\ \mu\text{m} \cdots (9)$
2.  $6\ \mu\text{m} < d_0 < 3.0\ \mu\text{m} \cdots (10)$
4.  $4\ \mu\text{m} < d_0 < 5.0\ \mu\text{m} \cdots (11)$
5.  $6\ \mu\text{m} < d_0 < 6.5\ \mu\text{m} \cdots (12)$
6.  $9\ \mu\text{m} < d_0 < 8.1\ \mu\text{m} \cdots (13)$

【請求項 27】 450 nm 以下の第 1 波長  $\lambda_1$  の第 1 光束を射出する第 1 光源及び前記第 1 波長  $\lambda_1$  の 1.3 倍より長い第 2 波長  $\lambda_2$  の第 2 光束を射出する第 2 光源の少なくとも 2 種類の光源と、前記 2 種類の光源から射出された光束を記録密度が互いに異なる少なくとも 2 種類の光ディスクの情報記録面上に集光するための対物レンズユニットとの間であって、前記第 1 光束及び第 2 光束の共通光路中に配置され、前記 2 種類の光源から射出された各光束の発散角を変換して前記対物レンズユニットに導くためのカップリングレンズにおいて、

前記カップリングレンズは、微細な段差により分割された複数の輪帯からなる回折構造が形成された回折面を少なくとも 1 つ有するレンズ群を少なくとも 1 つ有し、前記段差の光軸方向の深さは、前記第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数に対して、前記第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数がより低次数となるように設計されていると共に、その構成レンズ群のうち少なくとも 1 つのレンズ群と前記対物レンズユニットとの間隔を可変調整することで、前記対物レンズユニットへの入射光束のマージナル光線の傾角を変化させることを特徴とするカップリングレンズ。

【請求項 28】 前記第 2 波長  $\lambda_2$  は 600 nm から 700 nm の範囲内の波長であり、前記第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_1$  とし、前記第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_2$  としたとき、前記回折次数  $n_1$  と前記回折次数  $n_2$  の組合せが、 $(n_1, n_2) = (2, 1)$ 、

(3, 2)、(4, 2)、(5, 3)、(6, 4)、(7, 4)、(8, 5)、(10, 6)のいずれかであることを特徴とする請求項27に記載のカップリングレンズ。

【請求項29】 前記カップリングレンズの構成レンズのうち、前記回折面を有する構成レンズの前記第1波長 $\lambda_1$ における屈折率が1.5～1.6の範囲内であると共に、前記段差のうち光軸に最も近い段差の光軸方向の深さ $d_0$ が次式(1)～(8)のいずれか1つを満たすことを特徴とする請求項28に記載のカップリングレンズ。

1.  $2\ \mu\text{m} < d_0 < 1.7\ \mu\text{m} \cdots (1)$
1.  $9\ \mu\text{m} < d_0 < 2.6\ \mu\text{m} \cdots (2)$
2.  $6\ \mu\text{m} < d_0 < 3.2\ \mu\text{m} \cdots (3)$
3.  $3\ \mu\text{m} < d_0 < 4.2\ \mu\text{m} \cdots (4)$
4.  $4\ \mu\text{m} < d_0 < 5.0\ \mu\text{m} \cdots (5)$
4.  $7\ \mu\text{m} < d_0 < 5.7\ \mu\text{m} \cdots (6)$
5.  $6\ \mu\text{m} < d_0 < 6.5\ \mu\text{m} \cdots (7)$
6.  $9\ \mu\text{m} < d_0 < 8.1\ \mu\text{m} \cdots (8)$

【請求項30】 前記カップリングレンズは、前記第1光源、前記第2光源、及び前記第1波長 $\lambda_1$ 及び前記第2波長 $\lambda_2$ とは異なる第3波長 $\lambda_3$ の第3光束を射出する第3光源の3種類の光源と、前記3種類の光源から射出された光束を記録密度が異なる少なくとも3種類の光ディスクの情報記録面上に集光するための対物レンズユニットとの間であって、前記第1光束乃至前記第3光束の共通光路中に配置され、前記第2波長 $\lambda_2$ は600nmから700nmの範囲内の波長であり、第3光源から射出される第3光束の第3波長 $\lambda_3$ は730nmから830nmの範囲内の波長であり、前記第1光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を $n_1$ とし、前記第2光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を $n_2$ とし、前記第3光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を $n_3$ としたとき、前記回折次数 $n_1$ と前記回折次数 $n_2$ と前記回折次数 $n_3$ の組合せが、 $(n_1, n_2, n_3) = (2, 1, 1)$ 、

(4, 2, 2, )、(6, 4, 3)、(8, 5, 4)、(10, 6, 5)のいずれかであることを特徴とする請求項 27 に記載のカップリングレンズ。

【請求項 31】 前記カップリングレンズの構成レンズのうち、前記回折面を有する構成レンズの前記第 1 波長  $\lambda_1$  における屈折率が 1.5 ~ 1.6 の範囲内であると共に、前記段差のうち光軸に最も近い段差の光軸方向の深さ  $d_0$  が次式 (9) 乃至 (13) のいずれか 1 つを満たすことを特徴とする請求項 30 に記載のカップリングレンズ。

1.  $2\ \mu\text{m} < d_0 < 1.7\ \mu\text{m} \cdots (9)$
2.  $6\ \mu\text{m} < d_0 < 3.0\ \mu\text{m} \cdots (10)$
4.  $4\ \mu\text{m} < d_0 < 5.0\ \mu\text{m} \cdots (11)$
5.  $6\ \mu\text{m} < d_0 < 6.5\ \mu\text{m} \cdots (12)$
6.  $9\ \mu\text{m} < d_0 < 8.1\ \mu\text{m} \cdots (13)$

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、光ピックアップ装置、光情報記録再生装置、エキスパンダーレンズ、及びカップリングレンズに関する。

【0002】

【従来の技術】

近年、映像情報などの光記録媒体として急速に普及しつつある DVD (デジタルバーサタイルディスク) は、波長 650 nm の赤色半導体レーザと開口数 (NA) 0.6 の対物レンズを使用することで 1 面あたり 4.7 GB の情報を記録が可能であるが、より高密度な情報を高い転送レートで記録／再生するために、更なる高密度化・大容量化の要望が強くなってきている。光ディスクの高密度化・大容量化を達成するためには、周知のように対物レンズで集光されるスポットの径を小さくすればよく、そのためには、レーザ光源の短波長化や対物レンズの高開口数化が必要となる。

【0003】

レーザ光源の短波長化に関しては、波長 405 nm の青紫色半導体レーザや青

紫色 S H G レーザ等が実用化されつつあり、これらの青紫色レーザ光源と N A 0 . 6 の対物レンズとの組合せにより、直径 1 2 c m の光ディスクに対して、1 面あたり 1 5 G B 程度の情報の記録が可能となる（以下、本明細書では、青紫色レーザ光源を使用する光ディスクを総称して「高密度光ディスク」と呼ぶ）。

また、対物レンズの高 N A 化に関しては、青紫色レーザ光源からの光束を N A 0 . 8 5 の対物レンズにより集光して情報の記録／再生を行う光ディスクの規格が提案されており、この規格の光ディスクでは、直径 1 2 c m の光ディスクに対して、1 面あたり 2 3 G B 程度の情報の記録が可能である。

#### 【 0 0 0 4 】

高密度光ディスクに対して適切に情報を記録／再生できるようにするためには、色収差を補正する手段を設けることで、モードホッピングとよばれるレーザ光源の瞬間的な波長変化による集光性能の劣化を防ぐ必要がある。これは、青紫色領域におけるレンズ材料の波長分散が非常に大きくなるため、わずかな波長変化に対してもフォーカス誤差が大きく発生するためである。低コスト化、軽量化、小型化に適した色収差補正用の光学部品として、屈折レンズの表面に回折構造を形成した回折レンズがある。

#### 【 0 0 0 5 】

ところで、このような高密度光ディスクに対して適切に情報の記録／再生ができると言うだけでは、光ディスクプレーヤの製品としての価値は十分なものとはいえない。現在において、多種多様な情報を記録した D V D や C D （コンパクトディスク）が販売されている現実をふまえると、高密度光ディスクに対して情報の記録／再生ができるだけではならず、例えばユーザが所有している D V D や C D に対しても同様に適切に情報の記録／再生ができるようにすることが、高密度光ディスク用の光ディスクプレーヤとしての商品価値を高めることに通じるのである。このような背景から、高密度光ディスク用の光ディスクプレーヤに搭載される光ピックアップ装置は、高密度光ディスク、D V D、及び C D 何れに対しても互換性を維持しながら適切に情報を記録／再生できる性能を有することが望まれる。

#### 【 0 0 0 6 】

高密度光ディスク、DVD、及びCD何れに対しても互換性を維持しながら適切に情報を記録／再生できるようにする方法として、高密度光ディスク用の光学部品とDVDやCD用の光学部品とを情報を記録／再生する光ディスクの記録密度に応じて選択的に切り替える方法が考えられるが、複数の光学部品が必要となるので、小型化に不利であり、また、コストが増大する。

従って、光ピックアップ装置の構成を簡素化し、低コスト化を図るためには、互換性を有する光ピックアップ装置においても、高密度光ディスク用の光学部品とDVDやCD用の光学部品とを共通化して、光ピックアップ装置を構成する光学部品点数を極力減らすのが好ましい。

#### 【0007】

従って、青紫色領域における色収差を補正するための回折レンズを、互換性を有する光ピックアップ装置内に配置する場合には、高密度光ディスク用の青紫色レーザ光源からの光束のみが通過する光路中に配置するよりも、高密度光ディスク用の青紫色レーザ光源と、DVDやCD用のレーザ光源からの光束が通過する光路中に配置した方が、光ピックアップ装置の構成が簡素となり、光学部品点数が削減できるので小型化、低コスト化が可能となる。

このように、高密度光ディスク用の青紫色レーザ光源と、DVDやCD用のレーザ光源からの光束が通過する光路中に回折レンズを配置して青紫色領域における色収差を行うことで高密度光ディスクに対して適切に情報を記録／再生できる光ピックアップ装置の例は、例えば以下の特許文献1に記載されている。

#### 【0008】

##### 【特許文献1】

特開 2 0 0 1 - 6 0 3 3 6 号公報

#### 【0009】

##### 【発明が解決しようとする課題】

ところが、特許文献1においては、その図面及び記載から、高密度光ディスクに対して情報の記録／再生を行う際の球面収差補正をどうするかについて開示がない。光ピックアップ装置において発生する球面収差は、対物レンズのNAの4乗と波長の逆数に比例して大きくなるので、高密度光ディスクに対して適切に情

報を記録／再生できるようにするためには、上述の色収差補正に加え、球面収差を補正する手段を設けることで、高密度光ディスクの保護層の厚さ誤差、2層ディスクの記録層間のフォーカスジャンプ、青紫色レーザ光源の波長誤差等で発生する球面収差の補正も行う必要がある。即ち、特許文献1に記載されている光ピックアップ装置では、高密度光ディスク、DVD、及びCDのうち、少なくとも高密度光ディスクに対しては適切に情報を記録／再生することはできない。

#### 【0010】

本発明の課題は、上述の問題を考慮したものであり、レーザ光源波長が異なる高密度光ディスク、DVD、及びCD等の複数種類の光ディスクに対して互換性を維持しながら適切に情報を記録／再生を行え、小型化、軽量化、低コスト化に適した光ピックアップ装置、光情報記録再生装置、エキスパンダーレンズ、及びカップリングレンズを提供することにある。

#### 【0011】

##### 【課題を解決するための手段】

以上の課題を解決するため、請求項1に記載の発明は、450nm以下の第1波長 $\lambda_1$ の第1光束を射出する第1光源及び前記第1波長 $\lambda_1$ の1.3倍より長い第2波長 $\lambda_2$ の第2光束を射出する第2光源の少なくとも2種類の光源と、前記2種類の光源から射出された光束を記録密度が互いに異なる少なくとも2種類の光ディスクの情報記録面上に集光するための対物レンズユニットと、前記2種類の光源と前記対物レンズユニットとの間であって前記第1光束及び第2光束の共通光路中に配置された色収差補正用光学ユニット及び球面収差補正用光学ユニットと、を有する光ピックアップ装置において、前記球面収差補正用光学ユニットは、その構成レンズ群のうち少なくとも1つのレンズ群と前記対物レンズユニットとの間隔を可変調整することで、前記対物レンズユニットへの入射光束のマージナル光線の傾角を変化させると共に、前記色収差補正用光学ユニットは、微細な段差により分割された複数の輪帯からなる回折構造が形成された回折面を少なくとも1つ有するレンズ群を少なくとも1つ有し、前記段差の光軸方向の深さは、前記第1光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数に対して、前記第2光束が入射した場合に発生する回折光の

うち最大の回折効率を有する回折光の回折次数がより低次数となるように設計されていることを特徴とする。

#### 【0 0 1 2】

請求項 1 に記載の発明によれば、球面収差補正用光学ユニットの構成レンズ群のうち少なくとも 1 つのレンズ群と対物レンズユニットとの間隔を可変調整することで、対物レンズユニットへの入射光束のマージナル光線の傾角（マージナル光線と光軸とのなす角）を変化させることが可能である。このことは、球面収差補正用光学ユニットにより、対物レンズユニットの倍率を可変調整することに対応し、高密度光ディスクの情報記録面上のスポットの球面収差変化量に対応して、対物レンズユニットの倍率を変化させることで、光ディスクの情報記録面上のスポットの球面収差変化を補正することが可能である。これにより、高密度光ディスクの情報記録面上に形成されたスポットは常に球面収差が補正された状態を維持することができるので、高密度光ディスクに対する良好な記録／再生特性が得られる。

#### 【0 0 1 3】

また、球面収差補正用光学ユニットは、450 nm 以下の第 1 波長  $\lambda_1$  の第 1 光束と第 2 波長  $\lambda_2$  の第 2 光束との両方が通過する共通光路中に配置されているので、上述の球面収差補正は、高密度光ディスクに対する情報の記録／再生時だけでなく、例えば DVD や CD 等の記録密度が低い光ディスクに対する情報の記録／再生時にも行うことが可能である。これにより記録密度が低い光ディスクに対する記録／再生特性がさらに改善されるので、光ピックアップ装置としての信頼性が向上する。

そして、色収差補正用光学ユニットの構成レンズ群上に形成された回折面は、その輪帯の段差の光軸方向の深さが、第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数に対して、第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数がより低次数となるように設計されている。これにより、光源の波長差が 1.3 倍より大きい場合にも、それぞれの光源の波長領域において十分な回折効率を得られるので、かかる色収差補正用光学ユニットを第 1 光束と第 2 波長  $\lambda_2$  の第 2 光束との



両方が通過する光路中に配置することが可能となり、小型化、軽量化、低コスト化に適した光ピックアップ装置を得ることができる。

【0014】

尚、本明細書において、高密度光ディスクとは、上述したように、情報の記録／再生用の光源として、青紫色レーザ光源を使用する光ディスクの総称であり、DVDとは、DVD-ROM、DVD-Video、DVD-Audio、DVD-RAM、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW等のDVD系列の光ディスクの総称であり、CDとは、CD-ROM、CD-Audio、CD-Video、CD-R、CD-RW等のCD系列の光ディスクの総称である。

【0015】

請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の光ピックアップ装置において、前記球面収差補正用光学ユニットと前記色収差補正用光学ユニットは、同一の光学ユニットであることを特徴とする。

【0016】

請求項3に記載の発明は、請求項1又は2に記載の光ピックアップ装置において、前記球面収差補正用光学ユニットは、正レンズ群と負レンズ群とから構成されるエキスパンダーレンズであることを特徴とする。

【0017】

請求項4に記載の発明は、請求項1又は2に記載の光ピックアップ装置において、前記球面収差補正用光学ユニットは、前記2種類の光源から射出された各光束の発散角を変換して前記対物レンズユニットに導くためのカップリングレンズであることを特徴とする。

【0018】

請求項2に記載の発明によれば、球面収差補正用光学ユニットと色収差補正用光学ユニットとを同一の光学ユニットとして構成することで、光学部品点数を削減することができ、小型化、軽量化、低コスト化をより一層達成できる。

球面収差補正用光学ユニットと色収差補正用光学ユニットとを同一の光学ユニットとして構成する場合の例として、請求項3にあるように、その構成レンズ群

のうち少なくとも 1 つのレンズ群を光軸方向に変位可能とし、更に、いずれかの光学面を上述のようにその輪帯段差の深さが設計された回折面とした、正レンズ群と負レンズ群とから構成されるエキスパンダーレンズがある。

尚、ここでいうエキスパンダーレンズとは、入射光束の径を拡大して射出する拡大系の他に、入射光束の径を縮小して射出する縮小系も含むものとする。

#### 【0019】

また、球面収差補正用光学ユニットと色収差補正用光学ユニットとを同一の光学ユニットとして構成する場合の別の例として、請求項 4 にあるように、その構成レンズ群のうち少なくとも 1 つのレンズ群を光軸方向に変位可能とし、更に、いずれかの光学面を上述のようにその輪帯段差の深さが設計された回折面としたカップリングレンズがある。このようにレーザ光源から射出された発散光束を変換して対物レンズユニットに導くためのカップリングレンズに、球面収差補正用光学ユニットと色収差補正用光学ユニットとしての機能を持たせる場合は、光学部品点数を大きく削減することができ、小型化、軽量化、低コスト化に対して非常に有効である。

尚、ここでいうカップリングレンズとは、レーザ光源から射出された発散光束をほぼ平行光束に変換するコリメートレンズを含むものとする。

#### 【0020】

請求項 5 に記載の発明は、450 nm 以下の第 1 波長  $\lambda_1$  の第 1 光束を射出する第 1 光源及び前記第 1 波長  $\lambda_1$  の 1.3 倍より長い第 2 波長  $\lambda_2$  の第 2 光束を射出する第 2 光源の少なくとも 2 種類の光源と、前記 2 種類の光源から射出された光束を記録密度が互いに異なる少なくとも 2 種類の光ディスクの情報記録面上に集光するための対物レンズユニットと、前記 2 種類の光源と前記対物レンズユニットとの間であって前記第 1 光束及び第 2 光束の共通光路中に配置された色収差補正用光学ユニット及び球面収差補正用光学ユニットと、を有する光ピックアップ装置において、前記球面収差補正用光学ユニットは、電極と液晶分子層とが交互に積層された構造を有し、前記電極に所定の電圧を印可して、前記液晶分子層の屈折率分布を変化させることが可能であるように構成されると共に、前記色収差補正用光学ユニットは、微細な段差により分割された複数の輪帯からなる回

折構造が形成された回折面を少なくとも 1 つ有するレンズ群を少なくとも 1 つ有し、前記段差の光軸方向の深さは、前記第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数に対して、前記第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数がより低次数となるように設計されていることを特徴とする。

#### 【0 0 2 1】

請求項 5 に記載の発明においては、球面収差補正用光学ユニットとして、液晶素子を利用する。液晶分子層を挟むように配置された電極に電圧を印可することで、液晶分子層内には屈折率分布が発生する。このように、屈折率分布が形成された液晶分子層を透過した波面には球面収差が付加されるが、このとき、高密度光ディスクの情報記録面上のスポットの球面収差変化とが逆符号の球面収差がその透過波面に付加されるように、液晶分子層内の屈折率分布を制御する。これにより、高密度光ディスクの情報記録面上に形成されたスポットは常に球面収差が補正された状態を維持することができるので、高密度光ディスクに対する良好な記録／再生特性が得られる。

このように球面収差補正用光学ユニットとして、液晶素子を利用すると、機械的可動部が不要となるので、小型化、軽量化、低コスト化に有利となる。

#### 【0 0 2 2】

また、請求項 1 に記載の光ピックアップ装置と同じように、上述の球面収差補正は、高密度光ディスクに対する情報の記録／再生時だけでなく、例えば DVD や CD 等の記録密度が低い光ディスクに対する情報の記録／再生時にも行ってもよい。

そして、色収差補正用光学ユニットの構成レンズ群上に形成された回折面は、その輪帯の段差の光軸方向の深さが、第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数に対して、第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数がより低次数となるように設計されている。これにより、光源の波長差が 1.3 倍より大きい場合にも、それぞれの光源の波長領域において十分な回折効率を得られるので、かかる色収差補正用光学ユニットを第 1 光束と第 2 波長  $\lambda_2$  の第 2 光束との

両方が通過する光路中に配置することが可能となり、小型化、軽量化、低コスト化に適した光ピックアップ装置を得ることができる。

#### 【0023】

請求項6に記載の発明は、請求項5に記載の光ピックアップ装置において、前記対物レンズユニットは前記球面収差補正用光学ユニットと一体となってトラッキングを行うことを特徴とする。

#### 【0024】

請求項6に記載の発明によれば、球面収差補正用光学ユニットとして液晶素子を利用する場合、球面収差補正用光学ユニットを透過して対物レンズユニットに入射する光束の波面は、球面収差を持っている。このような場合、対物レンズユニットのトラッキングにより、対物レンズユニットと球面収差補正用光学ユニットとの光軸がずれると、コマ収差が発生し良好なトラッキング特性が得られない。そのため、対物レンズユニットは、球面収差補正用光学ユニットと一体となってトラッキングを行うように構成することが好ましい。

#### 【0025】

請求項7に記載の発明は、請求項1～6のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置において、前記球面収差補正用光学ユニットは、前記第1波長 $\lambda_1$ と前記第2波長 $\lambda_2$ の波長差に起因して前記対物レンズユニットで発生する球面収差を補正することを特徴とする。

#### 【0026】

請求項7に記載の発明によれば、本発明による第1の光ピックアップ装置及び第2の光ピックアップ装置において、対物レンズユニットの波長分散の影響で、第1波長 $\lambda_1$ と第2波長 $\lambda_2$ の波長差に起因して発生する球面収差を、球面収差補正用光学素子で補正するようにすると、高密度光ディスク、DVD、及びCD等の複数種類の光ディスクに対して互換性を維持しながら適切に情報を記録／再生を行うことのできる光ピックアップ装置を提供できる。

#### 【0027】

請求項8に記載の発明は、請求項1～7のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置において、前記球面収差補正用光学ユニットは、前記第1波長 $\lambda_1$ が $\pm 1$

0 nm の範囲内で変化した場合に、前記対物レンズユニットの色収差に起因して発生する球面収差を補正することを特徴とする。

#### 【0 0 2 8】

請求項 8 に記載の発明によれば、第 1 光源の製造誤差や環境温度変化により第 1 波長  $\lambda_1$  が変化した場合に、対物レンズユニットの波長分散の影響で発生する球面収差を、球面収差補正用光学素子で補正するようにすると、高密度光ディスクに対して適切に情報を記録／再生を行うことのできる光ピックアップ装置を提供できる。特に、高密度光ディスクに対する情報の記録／再生を行う際の対物レンズユニットの開口数が大きいと、第 1 光源の波長変化に対して球面収差が容易に発生するので、上述のような構成が有効である。

#### 【0 0 2 9】

請求項 9 に記載の発明は、請求項 1 ～ 8 のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置において、前記 2 種類の光ディスクのうち、記録密度が最も高い光ディスクを第 1 光ディスクとしたとき、前記第 1 光ディスクはその情報記録面上に第 1 保護層を有し、前記球面収差補正用光学ユニットは、前記第 1 保護層の厚さ誤差に起因して発生する球面収差を補正することを特徴とする。

#### 【0 0 3 0】

請求項 9 に記載の発明によれば、記録密度が最も高い第 1 光ディスクの保護層の厚さ誤差の影響で発生する球面収差を、球面収差補正用光学素子で補正するようにすると、高密度光ディスクに対して適切に情報を記録／再生を行うことのできる光ピックアップ装置を提供できる。特に、高密度光ディスクに対する情報の記録／再生を行う際の対物レンズユニットの開口数が大きいと、第 1 光ディスクの保護層の厚さが対物レンズユニットの設計時の基準保護層の厚さからわずかに変化しただけで、球面収差が容易に発生する。そのため、光ディスクの保護層の厚さを高精度に管理する必要があるので、光ディスクの量産時における歩留まりに悪影響を及ぼす可能性がある。上述のように、球面収差補正用光学ユニットでかかる保護層の厚さ誤差による球面収差の発生を補正する構成とすると、保護層の厚さ誤差に対する公差を緩和することができるので光ディスクの量産時の歩留まりを向上することが可能となる。

## 【0031】

請求項10に記載の発明は、請求項1～9のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置において、前記2種類の光ディスクのうち、記録密度が最も高い光ディスクを第1光ディスクとしたとき、前記第1光ディスクは前記光源側から順に、光学的透明層と情報記録面とが交互に積層された多層構造を有し、前記多層構造において前記光源に最も近い情報記録面から順に、第1情報記録面、第2情報記録面、・・・、第n情報記録面としたとき、前記球面収差補正用光学ユニットは、前記対物レンズが前記第i情報記録面から前記j情報記録面にフォーカスジャンプする際に発生する球面収差を補正することを特徴とする。

但し、iは $1 \leq i \leq n$ を満たす任意の整数であり、jは $1 \leq i \leq n$ を満たし、且つiとは異なる任意の整数である。

## 【0032】

請求項10に記載の発明は、複数の情報記録面層を有するタイプの高密度光ディスクに対して適切に情報を記録／再生を行うことのできる光ピックアップ装置である。請求項9の説明にも記載したように、高密度光ディスクに対する情報の記録／再生を行う際の対物レンズユニットの開口数が大きいと、第1光ディスクの保護層の厚さが対物レンズユニットの設計時の基準保護層の厚さからわずかに変化しただけで、球面収差が容易に発生する。そのため、対物レンズユニットがある情報記録面から別の情報記録面にフォーカスジャンプすると、球面収差が大きく変化する。請求項10にあるように、このフォーカスジャンプ時に発生する球面収差変化を球面収差補正用光学ユニットで補正する構成とすると、複数の情報記録面層を有するタイプの高密度光ディスクに対して適切に情報を記録／再生を行うことが可能となる。

## 【0033】

請求項11に記載の発明は、請求項1～10のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置において、前記2種類の光ディスクのうち、記録密度が最も高い光情報記録媒体を第1光ディスクとし、前記第1光ディスクはその情報記録面上に第1保護層を有し、前記2種類の光ディスクのうち、前記第1光ディスクよりも記録密度が低い光ディスクを第2光ディスクとしたとき、前記第2光ディスクはそ

の情報記録面上に前記第 1 保護層よりも厚い第 2 保護層を有し、前記球面収差補正用光学ユニットは、前記第 1 保護層と前記第 2 保護層の厚さの違いに起因して発生する球面収差を補正することを特徴とする。

#### 【0 0 3 4】

請求項 1 2 に記載の発明は、請求項 1 ～ 1 1 のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置において、前記対物レンズユニットはプラスチックレンズを少なくとも 1 つ有し、前記球面収差補正用光学ユニットは前記対物レンズユニットに含まれるプラスチックレンズの環境温度変化に伴う屈折率変化、及び／又は、前記プラスチックレンズ内の温度分布に伴う屈折率分布に起因する球面収差を補正することを特徴とする。

#### 【0 0 3 5】

請求項 1 3 に記載の発明は、請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置において、前記 2 種類の光ディスクのうち、記録密度が最も高い光情報記録媒体を第 1 光ディスクとし、前記第 1 光ディスクはその情報記録面上に第 1 保護層を有し、前記 2 種類の光ディスクのうち、前記第 1 光ディスクよりも記録密度が低い光ディスクを第 2 光ディスクとし、前記第 1 光ディスクに対して情報の記録及び／又は再生を行う際の前記対物レンズユニットの倍率を第 1 倍率とし、前記第 2 光ディスクに対して情報の記録及び／又は再生を行う際の前記対物レンズユニットの倍率を第 2 倍率としたとき、前記第 1 倍率と前記第 2 倍率は互いに異なり、前記球面収差補正用光学ユニットは、前記第 1 倍率と前記第 2 倍率との違いに応じて前記対物レンズユニットの物点位置を変化させることを特徴とする。

#### 【0 0 3 6】

請求項 1 1 に記載の発明によれば、高密度光ディスクと DVD や CD の保護層の厚さの違いに起因して発生する球面収差を、球面収差補正用光学素子で補正するようにすると、高密度光ディスク、DVD、及び CD 等の複数種類の光ディスクに対して互換性を維持しながら適切に情報を記録／再生を行うことのできる光ピックアップ装置を提供できる。

また、対物レンズユニットにプラスチックレンズが含まれる場合、光ピックア

ップ装置の環境温度の変化やアクチュエータの発熱に伴いプラスチックレンズの屈折率が変化するため、その影響で球面収差が変化する。従って、高密度光ディスクに対する情報の記録／再生を行う際の対物レンズユニットの開口数が大きいと、この球面収差変化が大きくなるため、対物レンズユニットの使用可能な温度範囲が非常に狭くなり実用上問題となる。また、対物レンズユニットの開口数が大きい場合には、プラスチックレンズ内に、光軸方向の温度分布や、光軸に関して回転対称な温度分布に伴う屈折率分布が発生した際の球面収差変化も問題となる。請求項 1 2 に記載の光ピックアップ装置は、球面収差補正用光学ユニットで環境温度の変化や、温度分布に伴う対物レンズユニットの球面収差変化を補正する構成であるので、高密度光ディスクに対して情報の記録／再生を行っている時に、環境温度の変化やアクチュエータの発熱が起こっても情報記録面上に集光されたスポットの球面収差は常に良好に補正された状態となる。

#### 【 0 0 3 7 】

また、球面収差補正用光学ユニットとして、構成レンズと対物レンズユニットとの間隔を可変調整することで、対物レンズユニットへの入射光束のマージナル光線の傾角を変化させるように構成された光学ユニットを使用する場合は、対物レンズユニットの物点位置を変化させることが可能である。この機能を利用すると、請求項 1 3 にあるように、高密度光ディスクと DVD や CD とに対する情報の記録／再生を行う際の対物レンズユニットの倍率が互いに異なる光ピックアップ装置において、それぞれの倍率に対応して対物レンズユニットの物点位置を変化させることができる。

#### 【 0 0 3 8 】

請求項 1 4 に記載の発明は、請求項 1 ～ 1 3 のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置において、前記第 2 波長  $\lambda_2$  は 6 0 0 nm から 7 0 0 nm の範囲内の波長であり、前記色収差補正用光学ユニットに前記第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_1$  とし、前記第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_2$  としたとき、前記回折次数  $n_1$  と前記回折次数  $n_2$  の組合せが、 $(n_1, n_2) = (2, 1)$ 、 $(3, 2)$ 、 $(4, 2)$ 、 $(5, 3)$ 、 $(6,$



4)、(7, 4) (8, 5)、(10, 6)のいずれかであることを特徴とする。

#### 【0039】

請求項14に記載の発明のように、450nm以下の第1波長 $\lambda_1$ と、600nmから700nmの範囲内の波長である第2波長 $\lambda_2$ とに対して、第1光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数 $n_1$ と、第2光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数 $n_2$ の組合せが、 $(n_1, n_2) = (2, 1)$ 、 $(3, 2)$ 、 $(4, 2)$ 、 $(5, 3)$ 、 $(6, 4)$ 、 $(7, 4)$  (8, 5)、 $(10, 6)$ のいずれかであるように、色収差補正用光学ユニットの輪帯段差の深さを設計すると、それぞれの波長領域において十分な回折効率を得られるので、かかる色収差補正用光学ユニットを第1光束と第2波長 $\lambda_2$ の第2光束との両方が通過する光路中に配置することが可能となり、小型化、軽量化、低コスト化に適した光ピックアップ装置を得ることができる。また、第1波長 $\lambda_1$ の波長領域で色収差を補正した場合でも、第2波長 $\lambda_2$ の波長領域における色収差補正が過剰になりすぎないので、高密度光ディスクとDVDの何れに対しても良好な記録特性を有する光ピックアップ装置を提供できる。

#### 【0040】

また、対物レンズやコリメートレンズなどの非球面を利用した光学部品はモールド成形で製造されるのが一般的である。モールド成形において、回折構造のような微細な構造を精度良く光学部品の光学面上に転写するには、光学部品をプラスチックレンズとするのが好ましい。青紫色領域において使用可能なプラスチックレンズは、その青紫色領域での屈折率が1.5～1.6の範囲内であるものが多い。

プラスチックレンズの光学面上に、回折次数 $n_1$ 及び回折次数 $n_2$ の組合せが請求項14にあるような回折構造を形成する場合には、具体的には、回折構造の段差のうち光軸に最も近い段差の光軸方向の深さ $d_0$ が次式(1)乃至(8)のいずれか1つを満たすようにすると良い。

$$1. \quad 2 \mu\text{m} < d_0 < 1.7 \mu\text{m} \cdots (1)$$

$$1. \ 9 \mu\text{m} < d_0 < 2. \ 6 \mu\text{m} \cdots (2)$$

$$2. \ 6 \mu\text{m} < d_0 < 3. \ 2 \mu\text{m} \cdots (3)$$

$$3. \ 3 \mu\text{m} < d_0 < 4. \ 2 \mu\text{m} \cdots (4)$$

$$4. \ 4 \mu\text{m} < d_0 < 5. \ 0 \mu\text{m} \cdots (5)$$

$$4. \ 7 \mu\text{m} < d_0 < 5. \ 7 \mu\text{m} \cdots (6)$$

$$5. \ 6 \mu\text{m} < d_0 < 6. \ 5 \mu\text{m} \cdots (7)$$

$$6. \ 9 \mu\text{m} < d_0 < 8. \ 1 \mu\text{m} \cdots (8)$$

ここで、(1)～(8)式は、それぞれ、 $(n_1, n_2) = (2, 1)$ 、 $(3, 2)$ 、 $(4, 2)$ 、 $(5, 3)$ 、 $(6, 4)$ 、 $(7, 4)$ 、 $(8, 5)$ 、 $(10, 6)$ に対応する段差深さの範囲である。

#### 【0041】

請求項15に記載の発明は、請求項1～13のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置において、前記第1波長 $\lambda_1$ 及び前記第2波長 $\lambda_2$ とは異なる第3波長 $\lambda_3$ の第3光束を射出する第3光源を有し、前記色収差補正用光学ユニットは、前記第1光源乃至前記第3光源と前記対物レンズユニットとの間であって前記第1光束乃至前記第3光束の共通光路中に配置され、前記第2波長 $\lambda_2$ は600nmから700nmの範囲内、前記第3波長 $\lambda_3$ は730nmから830nmの範囲内の波長であり、前記色収差補正用光学ユニットに前記第1光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を $n_1$ とし、前記第2光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を $n_2$ とし、前記第3光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を $n_3$ としたとき、前記回折次数 $n_1$ と前記回折次数 $n_2$ と前記回折次数 $n_3$ の組合せが、 $(n_1, n_2, n_3) = (2, 1, 1)$ 、 $(4, 2, 2)$ 、 $(6, 4, 3)$ 、 $(8, 5, 4)$ 、 $(10, 6, 5)$ のいずれかであることを特徴とする。

#### 【0042】

請求項15に記載の発明のように、回折次数 $n_1$ と回折次数 $n_2$ と回折次数 $n_3$ の組合せが、 $(n_1, n_2, n_3) = (2, 1, 1)$ 、 $(4, 2, 2)$ 、 $(6, 4, 3)$ 、 $(8, 5, 4)$ 、 $(10, 6, 5)$ のいずれかであるように、色収

差補正用光学ユニットの輪帯段差の深さを設計すると、それぞれの波長領域において十分な回折効率が得られるので、かかる色収差補正用光学ユニットを第1光束と第2波長 $\lambda_2$ の第2光束との両方が通過する光路中に配置することが可能となり、小型化、軽量化、低コスト化に適した光ピックアップ装置を得ることができる。また、第1波長 $\lambda_1$ の波長領域で色収差を補正した場合でも、600nmから700nmの範囲内、及び730nmから830nmの範囲内の波長領域における色収差補正が過剰になりすぎないので、高密度光ディスクとDVDとCDの何れに対しても良好な記録特性を有する光ピックアップ装置を提供できる。

#### 【0043】

また、プラスチックレンズの光学面上に、回折次数 $n_1$ 、回折次数 $n_2$ 及び回折次数 $n_3$ の組合せが請求項15にあるような回折構造を形成する場合には、具体的には、回折構造の段差のうち光軸に最も近い段差の光軸方向の深さ $d_0$ が次式(9)乃至(13)のいずれか1つを満たすようにすると良い。

$$1. \quad 2 \mu\text{m} < d_0 < 1.7 \mu\text{m} \cdots (9)$$

$$2. \quad 6 \mu\text{m} < d_0 < 3.0 \mu\text{m} \cdots (10)$$

$$4. \quad 4 \mu\text{m} < d_0 < 5.0 \mu\text{m} \cdots (11)$$

$$5. \quad 6 \mu\text{m} < d_0 < 6.5 \mu\text{m} \cdots (12)$$

$$6. \quad 9 \mu\text{m} < d_0 < 8.1 \mu\text{m} \cdots (13)$$

ここで、(9)～(13)式は、それぞれ、 $(n_1, n_2, n_3) = (2, 1, 1)$ 、 $(4, 2, 2)$ 、 $(6, 4, 3)$ 、 $(8, 5, 4)$ 、 $(10, 6, 5)$ に対応する段差深さの範囲である。

#### 【0044】

請求項16に記載の発明は、請求項1～15のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置において、前記対物レンズユニットは、前記2種類の光ディスクのうち、所定の記録密度を有する光ディスクに対して情報の記録及び／又は再生を行うために使用される第1対物レンズと、前記所定の記録密度を有する光ディスク以外の光ディスクに対して情報の記録及び／又は再生を行うために使用される第2対物レンズの、少なくとも2種類の対物レンズと、これら対物レンズを選択的に切り替えるための対物レンズ切り替え手段と、から構成されることを特徴とす

る。

#### 【0 0 4 5】

光ピックアップ装置の構成を簡略化し、低コスト化を図るためには、本来的には対物レンズを含む光学部品を、高密度光ディスクとDVD、CDとに対して共通化するのが好ましい。しかしながら、高密度光ディスクでは、使用可能な光源が限られていることから、情報の記録／再生に使用する波長は概ね決まっているものの、保護層の厚さや開口数などの光学的仕様に関しては、未だ決まっていないという実情がある。

従って、高密度光ディスクに対する情報の記録／再生に用いる対物レンズに関しては、ある程度設計の冗長性をも越しておく必要があり、かかる場合、共通の対物レンズを用いて、DVDやCDに対しても情報の記録／再生を適切に行うことは、収差特性上、極めて困難であるといえる。

#### 【0 0 4 6】

そこで、請求項16にあるように、対物レンズユニットを、所定の記録密度を有する光ディスクに対して情報の記録／再生を行うために使用される第1対物レンズと、それ以外の光ディスクに対して情報の記録／再生を行うために使用される第2対物レンズの、少なくとも2種類の対物レンズと、対物レンズ切り替え手段と、から構成し、光ディスクの記録密度に応じて使用する対物レンズを選択的に切り替えることで、高密度光ディスク、DVD、及びCD等の複数種類の光ディスクに対して互換性を維持しながら適切に情報を記録／再生を行うことのできる光ピックアップ装置を提供できる。

#### 【0 0 4 7】

光ピックアップ装置の光学部品点数を削減するためには、本来的には、色収差補正のための回折構造を高密度光ディスクに対する情報の記録／再生を行う際に使用する対物レンズの光学面上に形成するのが好ましい。しかしながら、高密度光ディスク用の対物レンズは大きなパワーを必要とするので光学面の曲率が小さくなる傾向がある。このように曲率が小さい光学面上に回折構造を形成すると、輪帯段差により光線のけられにより光利用効率が低下するので、光利用効率の観点からは、色収差補正のための回折構造は対物レンズ以外の光学部品の光学面上

に形成するのが好ましい。

しかるに、青紫色領域で最適化された回折構造が形成された光学部品を青紫色レーザ光源からの光束のみが通過する光路中に配置するのは、光学部品点数の観点からは好ましくないといえる。

#### 【0048】

このような理由から、色収差補正用光学ユニットは、高密度光ディスク用の青紫色レーザ光源と、DVDやCD用のレーザ光源からの光束が通過する光路中に配置した方が好ましいが、本発明による光ピックアップ装置では、色収差補正用光学ユニットの回折構造の輪帯段差の深さを上述のように設計しているので、それぞれの光源の波長領域において十分な回折効率が得られるので、かかる色収差補正用光学ユニットを、高密度光ディスク用の青紫色レーザ光源と、DVDやCD用のレーザ光源からの光束が通過する光路中に配置することが可能となり、小型化、軽量化、低コスト化に適した光ピックアップ装置を得ることができる。

#### 【0049】

請求項17に記載の発明は、請求項1～16のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置において、前記2種類の光ディスクのうち、記録密度が最も高い光ディスクを第1光ディスクとしたとき、前記第1光ディスクに対する情報の記録及び／又は再生を行う際の前記対物レンズユニットの開口数が0.8以上であることを特徴とする。

#### 【0050】

請求項18に記載の発明は、請求項1～17のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置において、前記2種類の光ディスクのうち、記録密度が最も高い光ディスクを第1光ディスクとし、前記第1光ディスクの次に記録密度が高い光ディスク第2光ディスクとしたとき、前記第1光ディスクはその情報記録面上にその厚さが0.07～0.13mmの範囲内である第1保護層を有し、前記第2光ディスクはその情報記録面上にその厚さが0.55～0.65mmの範囲内である第2保護層を有し、前記第1光束を前記第1光ディスク及び第2光ディスクそれぞれの情報記録面上に集光することにより、前記第1光ディスク及び前記第2光ディスクに対する情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となっていること

を特徴とする。

#### 【0051】

上述したように、高密度光ディスクでは、使用可能な光源が限られていることから、情報の記録／再生に使用する波長は概ね決まっているものの、保護層の厚さや開口数などの光学的仕様に関しては、未だ決まっていない。高密度光ディスクとして、開口数NA0.85、保護層の厚さ0.1mmの仕様や、開口数NA0.65、保護層の厚さ0.6mmの仕様が検討されている。高密度光ディスク用の光ディスクプレーヤにおいては、これら規格の異なる複数種類の高密度光ディスクに対しても適切に情報の記録／再生を行えることが、その製品価値を高めることにつながる。本発明による光ピックアップ装置において、請求項18にあるような構成とすることで、これら規格の異なる複数種類の高密度光ディスクに対しても適切に情報の記録／再生を行うことが可能となる。

#### 【0052】

請求項19に記載の発明は、請求項1～18のいずれか一項に記載の光ピックアップ装置を搭載し、前記光ディスクに対する情報の記録と前記光ディスクに記録された情報の再生とのうち、少なくとも一方を実行可能であることを特徴とする。

請求項20に記載の発明は、請求項3に記載の光ピックアップ装置における球面収差補正用光学ユニットに適用可能であることを特徴とする。

請求項21に記載の発明は、請求項4に記載の光ピックアップ装置における球面収差補正用光学ユニットに適用可能であることを特徴とする。

#### 【0053】

請求項22に記載の発明は、450nm以下の第1波長 $\lambda_1$ の第1光束を射出する第1光源及び前記第1波長 $\lambda_1$ の1.3倍より長い第2波長 $\lambda_2$ の第2光束を射出する第2光源の少なくとも2種類の光源と、前記2種類の光源から射出された光束を記録密度が互いに異なる少なくとも2種類の光ディスクの情報記録面上に集光するための対物レンズユニットとの間であって、前記第1光束及び第2光束の共通光路中に配置され、正レンズ群と負レンズ群とから構成されるエキスパンダーレンズにおいて、前記エキスパンダーレンズは、微細な段差により分割

された複数の輪帯からなる回折構造が形成された回折面を少なくとも 1 つ有するレンズ群を少なくとも 1 つ有し、前記段差の光軸方向の深さは、前記第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数に対して、前記第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数がより低次数となるように設計されていると共に、その構成レンズ群のうち少なくとも 1 つのレンズ群と前記対物レンズユニットとの間隔を可変調整することで、前記対物レンズユニットへの入射光束のマージナル光線の傾角を変化させることを特徴とする。

#### 【 0 0 5 4 】

請求項 2 2 に記載の発明によれば、その構成レンズ群のうち少なくとも 1 つのレンズ群と前記対物レンズユニットとの間隔を可変調整することで、上記請求項 1 と同様の効果を得られる。

#### 【 0 0 5 5 】

請求項 2 3 に記載の発明は、請求項 2 2 に記載のエキスパンダーレンズにおいて、前記第 2 波長  $\lambda_2$  は 6 0 0 nm から 7 0 0 nm の範囲内の波長であり、前記第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_1$  とし、前記第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_2$  としたとき、前記回折次数  $n_1$  と前記回折次数  $n_2$  の組合せが、 $(n_1, n_2) = (2, 1)$ 、 $(3, 2)$ 、 $(4, 2)$ 、 $(5, 3)$ 、 $(6, 4)$ 、 $(7, 4)$ 、 $(8, 5)$ 、 $(10, 6)$  のいずれかであることを特徴とする。

#### 【 0 0 5 6 】

請求項 2 4 に記載の発明は、請求項 2 3 に記載のエキスパンダーレンズにおいて、前記エキスパンダーレンズの構成レンズのうち、前記回折面を有する構成レンズの前記第 1 波長  $\lambda_1$  における屈折率が 1. 5 ～ 1. 6 の範囲内であると共に、前記段差のうち光軸に最も近い段差の光軸方向の深さ  $d_0$  が次式 (1) ～ (8) のいずれか 1 つを満たすことを特徴とする。

$$1. \ 2 \mu\text{m} < d_0 < 1. \ 7 \mu\text{m} \cdots (1)$$

$$1. \ 9 \mu\text{m} < d_0 < 2. \ 6 \mu\text{m} \cdots (2)$$

2.  $6 \mu\text{m} < d_0 < 3.2 \mu\text{m} \dots (3)$

3.  $3 \mu\text{m} < d_0 < 4.2 \mu\text{m} \dots (4)$

4.  $4 \mu\text{m} < d_0 < 5.0 \mu\text{m} \dots (5)$

4.  $7 \mu\text{m} < d_0 < 5.7 \mu\text{m} \dots (6)$

5.  $6 \mu\text{m} < d_0 < 6.5 \mu\text{m} \dots (7)$

6.  $9 \mu\text{m} < d_0 < 8.1 \mu\text{m} \dots (8)$

請求項 2 3 及び請求項 2 4 に記載の発明によれば、請求項 1 4 と同様の効果を  
得られる。

### 【0 0 5 7】

請求項 2 5 に記載の発明は、請求項 2 2 に記載のエキスパンダーレンズにおいて、前記エキスパンダーレンズは、前記第 1 光源、前記第 2 光源、及び前記第 1 波長  $\lambda_1$  及び前記第 2 波長  $\lambda_2$  とは異なる第 3 波長  $\lambda_3$  の第 3 光束を射出する第 3 光源の 3 種類の光源と、前記 3 種類の光源から射出された光束を記録密度が異なる少なくとも 3 種類の光ディスクの情報記録面上に集光するための対物レンズユニットとの間であって、前記第 1 光束乃至前記第 3 光束の共通光路中に配置され、前記第 2 波長  $\lambda_2$  は 6 0 0 n m から 7 0 0 n m の範囲内の波長であり、第 3 光源から射出される第 3 光束の第 3 波長  $\lambda_3$  は 7 3 0 n m から 8 3 0 n m の範囲内の波長であり、前記第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_1$  とし、前記第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_2$  とし、前記第 3 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_3$  としたとき、前記回折次数  $n_1$  と前記回折次数  $n_2$  と前記回折次数  $n_3$  の組合せが、 $(n_1, n_2, n_3) = (2, 1, 1)$ 、 $(4, 2, 2)$ 、 $(6, 4, 3)$ 、 $(8, 5, 4)$ 、 $(10, 6, 5)$  のいずれかであることを特徴とする。

### 【0 0 5 8】

請求項 2 6 に記載の発明は、請求項 2 5 に記載のエキスパンダーレンズにおいて、前記エキスパンダーレンズの構成レンズのうち、前記回折面を有する構成レンズの前記第 1 波長  $\lambda_1$  における屈折率が 1. 5 ~ 1. 6 の範囲内であると共に



、前記段差のうち光軸に最も近い段差の光軸方向の深さ  $d_0$  が次式 (9) 乃至 (13) のいずれか 1 つを満たすことを特徴とする。

1.  $2\ \mu\text{m} < d_0 < 1.7\ \mu\text{m} \cdots (9)$
2.  $6\ \mu\text{m} < d_0 < 3.0\ \mu\text{m} \cdots (10)$
4.  $4\ \mu\text{m} < d_0 < 5.0\ \mu\text{m} \cdots (11)$
5.  $6\ \mu\text{m} < d_0 < 6.5\ \mu\text{m} \cdots (12)$
6.  $9\ \mu\text{m} < d_0 < 8.1\ \mu\text{m} \cdots (13)$

請求項 25 及び請求項 26 に記載の発明によれば、請求項 15 と同様の効果を得られる。

#### 【0059】

請求項 27 に記載の発明は、450 nm 以下の第 1 波長  $\lambda_1$  の第 1 光束を射出する第 1 光源及び前記第 1 波長  $\lambda_1$  の 1.3 倍より長い第 2 波長  $\lambda_2$  の第 2 光束を射出する第 2 光源の少なくとも 2 種類の光源と、前記 2 種類の光源から射出された光束を記録密度が互いに異なる少なくとも 2 種類の光ディスクの情報記録面上に集光するための対物レンズユニットとの間であって、前記第 1 光束及び第 2 光束の共通光路中に配置され、前記 2 種類の光源から射出された各光束の発散角を変換して前記対物レンズユニットに導くためのカップリングレンズにおいて、前記カップリングレンズは、微細な段差により分割された複数の輪帯からなる回折構造が形成された回折面を少なくとも 1 つ有するレンズ群を少なくとも 1 つ有し、前記段差の光軸方向の深さは、前記第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数に対して、前記第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数がより低次数となるように設計されていると共に、その構成レンズ群のうち少なくとも 1 つのレンズ群と前記対物レンズユニットとの間隔を可変調整することで、前記対物レンズユニットへの入射光束のマージナル光線の傾角を変化させることを特徴とする。

請求項 27 に記載の発明によれば、上記請求項 1 と同様の効果を得られる。

#### 【0060】

請求項 28 に記載の発明は、請求項 27 に記載のカップリングレンズにおいて

、前記第 2 波長  $\lambda_2$  は 6 0 0 nm から 7 0 0 nm の範囲内の波長であり、前記第 1 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_1$  とし、前記第 2 光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を  $n_2$  としたとき、前記回折次数  $n_1$  と前記回折次数  $n_2$  の組合せが、 $(n_1, n_2) = (2, 1)$ 、 $(3, 2)$ 、 $(4, 2)$ 、 $(5, 3)$ 、 $(6, 4)$ 、 $(7, 4)$ 、 $(8, 5)$ 、 $(10, 6)$  のいずれかであることを特徴とする。

#### 【0 0 6 1】

請求項 2 9 に記載の発明は、請求項 2 8 に記載のカップリングレンズにおいて、前記カップリングレンズの構成レンズのうち、前記回折面を有する構成レンズの前記第 1 波長  $\lambda_1$  における屈折率が 1. 5 ~ 1. 6 の範囲内であると共に、前記段差のうち光軸に最も近い段差の光軸方向の深さ  $d_0$  が次式 (1) ~ (8) のいずれか 1 つを満たすことを特徴とする。

$$1. \quad 2 \mu\text{m} < d_0 < 1.7 \mu\text{m} \cdots (1)$$

$$1. \quad 9 \mu\text{m} < d_0 < 2.6 \mu\text{m} \cdots (2)$$

$$2. \quad 6 \mu\text{m} < d_0 < 3.2 \mu\text{m} \cdots (3)$$

$$3. \quad 3 \mu\text{m} < d_0 < 4.2 \mu\text{m} \cdots (4)$$

$$4. \quad 4 \mu\text{m} < d_0 < 5.0 \mu\text{m} \cdots (5)$$

$$4. \quad 7 \mu\text{m} < d_0 < 5.7 \mu\text{m} \cdots (6)$$

$$5. \quad 6 \mu\text{m} < d_0 < 6.5 \mu\text{m} \cdots (7)$$

$$6. \quad 9 \mu\text{m} < d_0 < 8.1 \mu\text{m} \cdots (8)$$

請求項 2 8 及び 2 9 に記載の発明によれば、上記請求項 1 4 と同様の効果を得られる。

#### 【0 0 6 2】

請求項 3 0 に記載の発明は、請求項 2 7 に記載のカップリングレンズにおいて、前記カップリングレンズは、前記第 1 光源、前記第 2 光源、及び前記第 1 波長  $\lambda_1$  及び前記第 2 波長  $\lambda_2$  とは異なる第 3 波長  $\lambda_3$  の第 3 光束を射出する第 3 光源の 3 種類の光源と、前記 3 種類の光源から射出された光束を記録密度が異なる少なくとも 3 種類の光ディスクの情報記録面上に集光するための対物レンズユニ

ットとの間であって、前記第1光束乃至前記第3光束の共通光路中に配置され、前記第2波長 $\lambda_2$ は600nmから700nmの範囲内の波長であり、第3光源から射出される第3光束の第3波長 $\lambda_3$ は730nmから830nmの範囲内の波長であり、前記第1光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を $n_1$ とし、前記第2光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を $n_2$ とし、前記第3光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数を $n_3$ としたとき、前記回折次数 $n_1$ と前記回折次数 $n_2$ と前記回折次数 $n_3$ の組合せが、 $(n_1, n_2, n_3) = (2, 1, 1)$ 、 $(4, 2, 2)$ 、 $(6, 4, 3)$ 、 $(8, 5, 4)$ 、 $(10, 6, 5)$ のいずれかであることを特徴とする。

#### 【0063】

請求項31に記載の発明は、請求項30に記載のカップリングレンズにおいて、前記カップリングレンズの構成レンズのうち、前記回折面を有する構成レンズの前記第1波長 $\lambda_1$ における屈折率が1.5～1.6の範囲内であると共に、前記段差のうち光軸に最も近い段差の光軸方向の深さ $d_0$ が次式(9)乃至(13)のいずれか1つを満たすことを特徴とする。

1.  $2\mu\text{m} < d_0 < 1.7\mu\text{m} \cdots (9)$
2.  $6\mu\text{m} < d_0 < 3.0\mu\text{m} \cdots (10)$
4.  $4\mu\text{m} < d_0 < 5.0\mu\text{m} \cdots (11)$
5.  $6\mu\text{m} < d_0 < 6.5\mu\text{m} \cdots (12)$
6.  $9\mu\text{m} < d_0 < 8.1\mu\text{m} \cdots (13)$

請求項30及び請求項31に記載の発明によれば、請求項15と同様の効果を得られる。

#### 【0064】

##### 【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について、図面を参照しつつ説明する。

##### 〔第1の実施の形態〕

図1は、高密度光ディスクHDとDVDとCDとの何れに対しても適切に情報

の記録／再生を行える第1の光ピックアップ装置PU1の構成を概略的に示す平面図である。

高密度光ディスクHDの光学的仕様は、波長405nm、保護層の厚さ0.6mm、開口数NA0.65であり、DVDの光学的仕様は、波長655nm、保護層の厚さ0.6mm、開口数NA0.63であり、CDの光学的仕様は、波長785nm、保護層の厚さ1.2mm、開口数0.50である。但し、波長、保護層の厚さ、及び開口数の組合せはこれに限られない。

光ピックアップ装置PU1は、高密度光ディスクHDに対して情報の記録／再生を行う場合に発光され405nmのレーザ光束を射出する青紫色半導体レーザLD1と光検出器PD1とが一体化された高密度光ディスクHD用モジュールMD1、DVDに対して情報の記録／再生を行う場合に発光され655nmのレーザ光束を射出する第1の発光点EP1と、CDに対して情報の記録／再生を行う場合に発光され785nmのレーザ光束を射出する第2の発光点EP2と、DVDの情報記録面RL2からの反射光束を受光する第1の受光部DS1と、CDの情報記録面RL3からの反射光束を受光する第2の受光部DS2と、プリズムPSとから構成されたレーザモジュールLM、対物レンズOBJと2軸アクチュエータAC2と高密度光ディスクHDの開口数NA0.65に対応した絞りSTOとから構成された対物レンズユニットOU、偏光ビームスプリッタBS、コリメートレンズCOL、負レンズNLと正レンズPLとから構成されたエキスパンダーレンズEXPと、1軸アクチュエータAC1とから構成されたエキスパンダーレンズユニットEUとから構成されている。

#### 【0065】

尚、図1には、レーザモジュールLMの側面図も示されている。

また、高密度光ディスクHD用の光源として、上述の青紫色半導体レーザLD1の他に青紫色SHGレーザを使用することもできる。

また、対物レンズOBJは高密度光ディスクHDに対して最適化された両面非球面プラスチックレンズであり、その光源側の光学面上には、波長選択性を有するフィルタが形成されている。このフィルタは波長に応じて光束の通過領域を制限することで、DVDに対しては開口数NA0.63を実現し、CDに対しては

開口数NA0.50を実現する。

かかる波長選択性を有するフィルタの代わりに、第27回光学シンポジウム講演予稿集の55～56頁に記載されているような回折構造を対物レンズOBJの光源側の光学面上に形成しても良い。

更に、対物レンズユニットOUには、図示は省略するが、2軸アクチュエータAC2の動作制御を行う動作制御回路が設けられている。

#### 【0066】

エキスパンダーレンズユニットEUは、色収差補正用光学ユニットとしての機能と球面収差補正用光学ユニットとしての機能を兼ね備えている。つまり、色収差補正用光学ユニットと球面収差補正用光学ユニットとは同一の光学ユニットとなっている。

また、エキスパンダーレンズEXPの正レンズPLの光学面上には、青紫色領域における対物レンズOBJの色収差を補正するための回折構造が形成されており、図1中の拡大図に示すように、その輪帯の段差の光軸方向の深さdは、波長405nmのレーザ光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数に対して、波長655nm及び波長785nmの光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数がより低次数となるように設計されている。これにより、それぞれの波長領域において十分な回折効率を得られるとともに、青紫色領域で色収差を補正した場合でも、波長655nm及び波長785nmの波長領域における色収差補正が過剰になりすぎない。

#### 【0067】

また、エキスパンダーレンズEXPの負レンズNLは、1軸アクチュエータAC1により光軸に沿って変移することで、対物レンズOBJへの入射光束のマージナル光線の傾角を変化させることが可能となっているため、詳しい説明は後述するが、様々な要因で発生する高密度光ディスクの情報記録面上のスポットの球面収差変化を補正することができる。

尚、エキスパンダーレンズユニットEUには、図示は省略するが、1軸アクチュエータAC1の動作制御を行う動作制御回路が設けられている。

光ピックアップ装置 P U 1 において、高密度光ディスク H D に対して情報の記録／再生を行う場合には、図 1 において実線でその光線経路を描いたように、高密度光ディスク H D 用モジュール M D 1 を作動させて青紫色半導体レーザ L D 1 を発光させる。青紫色半導体レーザ L D 1 から射出された発散光束は、偏光ビームスプリッタ B S を透過し、コリメートレンズ C O L を経て平行光束とされ、エキスパンダーレンズ E X P を透過することで光束径が拡大された後、絞り S T O により光束径が規制され、対物レンズ O B J によって高密度光ディスク H D の保護層 P L 1 を介して情報記録面 R L 1 上に形成されるスポットとなる。対物レンズ O B J は、その周辺に配置された 2 軸アクチュエータ A C によってフォーカシングやトラッキングを行う。情報記録面 R L 1 で情報ビットにより変調された反射光束は、再び対物レンズ O B J 、絞り S T O 、エキスパンダーレンズ E X P 、及びコリメートレンズ C O L を透過した後、収斂光束となり、偏光ビームスプリッタ B S を透過した後、高密度光ディスク用 H D 用モジュール M D 1 の光検出器 P D 1 の受光面上に収束する。そして、光検出器 P D 1 の出力信号を用いて高密度光ディスク H D に記録された情報を読み取ることができる。

#### 【 0 0 6 8 】

ここで、高密度光ディスク H D に対して情報の記録／再生を行う際に、例えば、青紫色半導体レーザ L D 1 の波長変化、保護層 P L 1 の厚さ誤差、2 層ディスクの情報記録面間のフォーカスジャンプ、環境温度変化や 2 軸アクチュエータ A C 2 の発熱に伴う対物レンズ O B J の屈折率変化、等の影響で情報記録面 R L 1 上のスポットの球面収差が補正過剰方向に変化した場合は、対物レンズ O B J との間隔を狭めるように、エキスパンダーレンズ E X P の負レンズ N L を 1 軸アクチュエータ A C 1 により変移させる。逆に、情報記録面 R L 1 上のスポットの球面収差が補正不足方向に変化した場合は、対物レンズ O B J との間隔を広げるように、エキスパンダーレンズ E X P の負レンズ N L を 1 軸アクチュエータ A C 1 により変移させる。これにより、情報記録面 R L 1 上のスポットは常に球面収差が補正された状態となるので、高密度光ディスク H D に対して良好な記録／再生特性が得られる。

#### 【 0 0 6 9 】

また、回折構造が形成された、エキスパンダーレンズEXPの正レンズPLと対物レンズOBJとを透過した波面は色収差が良好に補正された状態となるので、情報の再生から記録へと切り替える際に青紫色半導体レーザLD1がモードホッピングを起こしても、情報記録面RL1上に集光されたスポット径が大きくなることはない。

また、光ピックアップ装置PU1において、DVDに対して情報の記録／再生を行う場合には、発光点EP1を発光させる。発光点EP1から射出された発散光束は、図1において破線でその光線経路を描いたように、プリズムPSで反射された後、偏光ビームスプリッタBSにより反射され、コリメートレンズCOLによって平行光束とされる。その後、エキスパンダーレンズEXPにより光束径が拡大され、絞りSTOにより光束径が規制された後、波長選択性を有するフィルタにより更に光束径が規制される。その後、対物レンズOBJによってDVDの保護層PL2を介して情報記録面RL2上に形成されるスポットとなる。対物レンズOBJは、その周辺に配置された2軸アクチュエータACによってフォーカシングやトラッキングを行う。情報記録面RL2で情報ピットにより変調された反射光束は、再び対物レンズOBJ、絞りSTO、エキスパンダーレンズEXP、及びコリメートレンズCOLを透過した後、収斂光束となり、偏光ビームスプリッタBSにより反射された後、プリズムPS内部で2回反射され受光部DS1に集光する。そして、受光部DS1の出力信号を用いてDVDに記録された情報を読み取ることができる。

#### 【0070】

上述したように、対物レンズOBJは、高密度光ディスクHDに対して最適化された両面非球面プラスチックレンズであるので、対物レンズOBJに対して655nmの光束が入射した場合、DVDの情報記録面RL2上に集光されるスポットは、対物レンズOBJの波長分散の影響で球面収差が補正過剰方向に変化する。そこで、DVDに対して情報の記録／再生を行う場合には、この球面収差変化が補正されるように、対物レンズOBJとの間隔を狭めて、エキスパンダーレンズEXPの負レンズNLと対物レンズOBJとの間隔を最適化してから（即ち、対物レンズOBJの物点位置を最適化してから）DVDに対する情報の記録／

再生を行う。

### 【0071】

更に、光ピックアップ装置 P U 1 において、C D に対して情報の記録／再生を行う場合には、発光点 E P 2 を発光させる。発光点 E P 2 から射出された発散光束は、図 1 において 2 点鎖線でその光線経路を描いたように、プリズム P S で反射された後、偏光ビームスプリッタ B S により反射され、コリメートレンズ C O L によって平行光束とされる。その後、エキスパンダーレンズ E X P により光束径が拡大され、絞り S T O により光束径が規制された後、波長選択性を有するフィルタにより更に光束径が規制される。その後、対物レンズ O B J によって C D の保護層 P L 3 を介して情報記録面 R L 3 上に形成されるスポットとなる。対物レンズ O B J は、その周辺に配置された 2 軸アクチュエータ A C によってフォーカシングやトラッキングを行う。情報記録面 R L 3 で情報ピットにより変調された反射光束は、再び対物レンズ O B J 、絞り S T O 、エキスパンダーレンズ E X P 、及びコリメートレンズ C O L を透過した後、収斂光束となり、偏光ビームスプリッタ B S により反射された後、プリズム P S 内部で 2 回反射され受光部 D S 2 に集光する。そして、受光部 D S 2 の出力信号を用いて C D に記録された情報を読み取ることができる。

### 【0072】

対物レンズ O B J は、高密度光ディスク H D に対して最適化された両面非球面プラスチックレンズであるので、対物レンズ O B J に対して 7 8 5 n m の光束が入射した場合、C D の情報記録面 R L 3 上に集光されるスポットは、対物レンズ O B J の波長分散と高密度光ディスクの保護層 P L 1 と C D の保護層 P L 3 の違いの影響で球面収差が補正過剰方向に変化する。そこで、C D に対して情報の記録／再生を行う場合には、この球面収差変化が補正されるように、対物レンズ O B J との間隔を狭めて、エキスパンダーレンズ E X P の負レンズ N L と対物レンズ O B J との間隔を最適化してから（即ち、対物レンズ O B J の物点位置を最適化してから）C D に対する情報の記録／再生を行う。

### 【0073】

[第 2 の実施の形態]



図 2 は、規格の異なる 2 種類の高密度光ディスクである第 1 の高密度光ディスク HD 1 及び第 2 の高密度光ディスク HD 2 と、DVD と、CD の何れに対しても適切に情報の記録／再生を行える第 2 の光ピックアップ装置 PU 2 の構成を概略的に示す平面図である。第 1 の高密度光ディスク HD 1 の光学的仕様は、波長 4 0 5 nm、保護層の厚さ 0. 1 mm、開口数 NA 0. 8 5 であり、第 2 の高密度光ディスク HD 2 の光学的仕様は、波長 4 0 5 nm、保護層の厚さ 0. 6 mm、開口数 NA 0. 6 5 であり、DVD の光学的仕様は、波長 6 5 5 nm、保護層の厚さ 0. 6 mm、開口数 NA 0. 6 3 であり、CD の光学的仕様は、波長 7 8 5 nm、保護層の厚さ 1. 2 mm、開口数 NA 0. 5 0 である。但し、波長、保護層の厚さ、及び開口数の組合せはこれに限られない。

#### 【 0 0 7 4 】

光ピックアップ装置 PU 2 は、第 1 の高密度光ディスク HD 1 と第 2 の高密度光ディスク HD 2 とに対して情報の記録／再生を行う場合に発光され 4 0 5 nm のレーザ光束を射出する青紫色半導体レーザ LD 1 と光検出器 PD 1 とが一体化された高密度光ディスク HD 用モジュール MD 1、DVD に対して情報の記録／再生を行う場合に発光され 6 5 5 nm のレーザ光束を射出する第 1 の発光点 EP 1 と、CD に対して情報の記録／再生を行う場合に発光され 7 8 5 nm のレーザ光束を射出する第 2 の発光点 EP 2 と、DVD の情報記録面 RL 2 からの反射光束を受光する第 1 の受光部 DS 1 と、CD の情報記録面 RL 3 からの反射光束を受光する第 2 の受光部 DS 2 と、プリズム PS とから構成されたレーザモジュール LM、対物レンズユニット OU、偏光ビームスプリッタ BS、コリメートレンズ COL と 1 軸アクチュエータ AC 1 とから構成されたコリメートレンズユニット CU とから構成されている。

尚、図 2 には、レーザモジュール LM の側面図も示されている。

また、高密度光ディスク HD 用の光源として、上述の青紫色半導体レーザ LD 1 の他に青紫色 SHG レーザを使用することもできる。

更に、対物レンズユニット OU は、第 1 の高密度光ディスク HD 1 に対する情報の記録／再生を行うための第 1 の対物レンズ OBJ 1 と、第 1 の高密度光ディスク HD 1 の開口数 NA 0. 8 5 に対応した第 1 の絞り STO 1 と、第 2 の高密

度光ディスクHD2とDVDとCDとに対する情報の記録／再生を行うための第2の対物レンズOBJ2と、第2の高密度光ディスクHD2の開口数NA0.65に対応した第2の絞りSTO2と、2軸アクチュエータAC2と、図2中に矢印で示すように、情報の記録／再生を行う光ディスクの記録密度に応じて選択的に第1の対物レンズOBJ1と第2の対物レンズOBJ2とを切り替える対物レンズ切り替え手段（図示せず）とから構成されている。

#### 【0075】

また、第1の対物レンズOBJ1は第1の高密度光ディスクHD1に対して最適化された両面非球面プラスチックレンズであり、その光源側の光学面上には、波長選択性を有するフィルタが形成されている。このフィルタは波長に応じて光束の通過領域を制限することで、DVDに対しては開口数NA0.63を実現し、CDに対しては開口数NA50を実現する。

かかる波長選択性を有するフィルタの代わりに、第27回光学シンポジウム講演予稿集の55～56頁に記載されているような回折構造を第2の対物レンズOBJ2の光源側の光学面上に形成しても良い。

#### 【0076】

図3は、第2の光ピックアップ装置PU2に用いる対物レンズユニットOUの斜視図である。図3に示される対物レンズユニットOUは、第1の高密度光ディスクHD1に対する情報の記録／再生を行うための第1の対物レンズOBJ1と、第1の高密度光ディスクHD1の開口数NA0.85に対応した第1の絞りSTO1（図示せず）と、第2の高密度光ディスクHD2とDVDとCDとに対する情報の記録／再生を行うための第2の対物レンズOBJ2と、第2の高密度光ディスクHD2の開口数NA0.65に対応した第2の絞りSTO2（図示せず）と、これらの第1の対物レンズOBJ1及び第2の対物レンズOBJ2の光軸を、同一円周上CL上に保持するボビンBと、このボビンBを円周CLの中心軸の位置に設けられた支軸Pを介して回転移動させる対物レンズ切り替え手段としてのステッピングモータSM（図示せず）と、このボビンBを円周CLの中心軸の位置に設けられた支軸Pを介して回転自在に、且つこの回転の中心軸に沿って往復移動自在に保持するシャーシSと、ボビンBを支軸Pに沿った方向に往復移

動させるフォーカシングアクチュエータ F A（図示せず）と、ボビン B に回転動作を付勢して第 1 の対物レンズ O B J 1 及び第 2 の対物レンズ O B J 2 の位置決めを行うトラッキングアクチュエータ T A とを備えている。この対物レンズユニット O U には、図示は省略するが、2 軸アクチュエータ A C 2（フォーカシングアクチュエータ F A 及びトラッキングアクチュエータ T A）の動作制御を行う動作制御回路が設けられている。

#### 【 0 0 7 7 】

第 1 の対物レンズ O B J 1 及び第 2 の対物レンズ O B J 2 は、それぞれ円板状のボビン B の平面部を貫通した孔部に装備されており、ボビン B の中心からそれぞれ等しい距離で配設されている。このボビン B は、その中心部でシャーシ S から立設された支軸 P の上端部と回転自在に係合されており、この支軸 P の下方には、図示を省略したフォーカシングアクチュエータ F A が配設されている。このフォーカシングアクチュエータ F A は、支軸 P の下端部に設けられたマグネット F M と、この周囲に設けられたフォーカシングコイル F C とから構成されており、第 1 の対物レンズ O B J 1 及び第 2 の対物レンズ O B J 2 のフォーカシングを行う。

また、上述したように、このボビン B は、トラッキングアクチュエータ T A によって、光軸と平行な軸線を有する支軸 P を中心とした回転動作が付与される。このトラッキングアクチュエータ T A は、ボビン B の端縁部に支軸 P を挟んで対称に設けられた一対のトラッキングコイル T C A、T C B と、ボビン B の端縁部に近接してシャーシ S 上の支軸 P を挟んで対称となる位置に設けられた二組の対をなすマグネット T M A、T M B、T M C、T M D を備えている。

#### 【 0 0 7 8 】

そして、トラッキングコイル T C A、T C B が、一方の対をなすマグネット T M A、T M B と個々に対向するときには、第 1 の対物レンズ O B J 1 が、レーザ光源からの光束の光路上となるように、マグネット T M A、T M B の位置が設定されており、また、トラッキングコイル T C A、T C B が、もう一方の対をなすマグネット T M C、T M D と個々に対向するときには、第 2 の対物レンズ O B J 2 が、レーザ光源からの光束の光路上となるように、マグネット T M A、T M B

の位置が設定されている。

また、上述のボビンBには、トラッキングコイルTCAと、マグネットTMAまたはマグネットTMD、及びトラッキングコイルTCBと、マグネットTMBまたはマグネットTMCとが対向しないように、その回転範囲を制限する図示しないストッパーが設けられている。

#### 【0079】

更に、トラッキングアクチュエータTAは、円形のボビンBの外周の接線方向が光ディスクのトラックの接線方向と直交するように配設され、このボビンBに微小単位で回転動作を付勢することによりトラックに対するスポット位置のずれの補正（トラッキング）を行う。

コリメートレンズユニットCUは、色収差補正用光学ユニットとしての機能と球面収差補正用光学ユニットとしての機能を兼ね備えており、コリメートレンズCOLの光学面上には、青紫色領域における第1の対物レンズOBJ1と第2の対物レンズOBJ2の色収差を補正するための回折構造が形成されており、図2中の拡大図に示すように、その輪帯の段差の光軸方向の深さdは、波長405nmのレーザ光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数に対して、波長655nm及び波長785nmの光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数がより低次数となるように設計されている。これにより、それぞれの波長領域において十分な回折効率を得られるとともに、青紫色領域で色収差を補正した場合でも、波長655nm及び波長785nmの波長領域における色収差補正が過剰になりすぎない。

#### 【0080】

また、コリメートレンズCOLは、1軸アクチュエータAC1により光軸に沿って変移することで、第1の対物レンズOBJ1と第2の対物レンズOBJ2への入射光束のマージナル光線の傾角を変化させることが可能であり、詳しい説明は後述するが、様々な要因で発生する、高密度光ディスクの情報記録面上のスポットの球面収差変化を補正することができる。

尚、コリメートレンズユニットCUには、図示は省略するが、1軸アクチュエ

ータ A C 1 の動作制御を行う動作制御回路が設けられている。

#### 【0 0 8 1】

光ピックアップ装置 P U 2 において、第 1 の高密度光ディスク H D 1 に対して情報の記録／再生を行う場合には、対物レンズユニット O U の対物レンズ切り替え手段により、第 1 の対物レンズ O B J 1 を青紫色半導体レーザ L D 1 からの光束の光路中に挿入する。その後、図 2 において実線でその光線経路を描いたように、高密度光ディスク H D 用モジュール M D 1 を作動させて青紫色半導体レーザ L D 1 を発光させる。青紫色半導体レーザ L D 1 から射出された発散光束は、偏光ビームスプリッタ B S を透過し、コリメートレンズ C O L を経て平行光束とされた後、第 1 の絞り S T O 1 により光束径が規制され、第 1 の対物レンズ O B J 1 によって第 1 の高密度光ディスク H D 1 の保護層 P L 1 A を介して情報記録面 R L 1 A 上に形成されるスポットとなる。第 1 の対物レンズ O B J 1 は、その周辺に配置された 2 軸アクチュエータ A C によってフォーカシングやトッラキングを行う。情報記録面 R L 1 A で情報ピットにより変調された反射光束は、再び第 1 の対物レンズ O B J 1 、第 1 の絞り S T O 1 、コリメートレンズ C O L を透過した後、収斂光束となり、偏光ビームスプリッタ B S を透過した後、高密度光ディスク用 H D 用モジュール M D 1 の光検出器 P D 1 の受光面上に収束する。そして、光検出器 P D 1 の出力信号を用いて第 1 の高密度光ディスク H D 1 に記録された情報を読み取ることができる。

#### 【0 0 8 2】

更に、光ピックアップ装置 P U 2 において、第 2 の高密度光ディスク H D 2 に対して情報の記録／再生を行う場合には、対物レンズユニット O U の対物レンズ切り替え手段により、第 2 の対物レンズ O B J 2 を青紫色半導体レーザ L D 1 からの光束の光路中に挿入する。その後、図 2 において実線でその光線経路を描いたように、高密度光ディスク H D 用モジュール M D 1 を作動させて青紫色半導体レーザ L D 1 を発光させる。青紫色半導体レーザ L D 1 から射出された発散光束は、偏光ビームスプリッタ B S を透過し、コリメートレンズ C O L を経て平行光束とされた後、第 2 の絞り S T O 2 により光束径が規制され、第 2 の対物レンズ O B J 2 によって第 2 の高密度光ディスク H D 2 の保護層 P L 1 B を介して情報

記録面 R L 1 B 上に形成されるスポットとなる。第 2 の対物レンズ O B J 2 は、その周辺に配置された 2 軸アクチュエータ A C によってフォーカシングやトラッキングを行う。情報記録面 R L 1 B で情報ピットにより変調された反射光束は、再び第 2 の対物レンズ O B J 2、第 2 の絞り S T O 2、コリメートレンズ C O L を透過した後、収斂光束となり、偏光ビームスプリッタ B S を透過した後、高密度光ディスク用 H D 用モジュール M D 1 の光検出器 P D 1 の受光面上に収束する。そして、光検出器 P D 1 の出力信号を用いて第 2 の高密度光ディスク H D 2 に記録された情報を読み取ることができる。

### 【0083】

第 1 の高密度光ディスク H D 1（或いは、第 2 の高密度光ディスク H D 2）に対して情報の記録／再生を行う際に、例えば、青紫色半導体レーザ L D 1 の波長変化、保護層 P L 1 A（P L 1 B）の厚さ誤差、2 層ディスクの情報記録面間のフォーカスジャンプ、環境温度変化や 2 軸アクチュエータ A C 2 の発熱に伴う第 1 対物レンズ O B J 1（第 2 の対物レンズ O B J 2）の屈折率変化、等の影響で情報記録面 R L 1 A（R L 1 B）上のスポットの球面収差が補正過剰方向に変化した場合は、第 1 の対物レンズ O B J 1（第 2 の対物レンズ O B J 2）との間隔を狭めるように、コリメートレンズ C O L を 1 軸アクチュエータ A C 1 により変移させる。逆に、情報記録面 R L 1 A（R L 2 B）上のスポットの球面収差が補正不足方向に変化した場合は、第 1 の対物レンズ O B J 1（第 2 の対物レンズ O B J 2）との間隔を広げるように、コリメートレンズ C O L を 1 軸アクチュエータ A C 1 により変移させる。これにより、情報記録面 R L 1 A（R L 1 B）上のスポットは常に球面収差が補正された状態となるので、第 1 の高密度光ディスク H D 1（第 2 の高密度光ディスク H D 2）に対して良好な記録／再生特性が得られる。

### 【0084】

また、回折構造が形成されたコリメートレンズ C O L と対物レンズ O B J とを透過した波面は色収差が良好に補正された状態となるので、情報の再生から記録へと切り替える際に青紫色半導体レーザ L D 1 がモードホッピングを起こしても、情報記録面 R L 1 A（R L 1 B）上に集光されたスポット径が大きくなること

はない。

また、光ピックアップ装置 P U 2 において、D V D に対して情報の記録／再生を行う場合には、対物レンズユニット O U の対物レンズ切り替え手段により、第 2 の対物レンズ O B J 2 を発光点 E P 1 からの光束の光路中に挿入した後、発光点 E P 1 を発光させる。発光点 E P 1 から射出された発散光束は、図 2 において破線でその光線経路を描いたように、プリズム P S で反射された後、偏光ビームスプリッタ B S により反射され、コリメートレンズ C O L によって平行光束とされる。その後、第 2 の絞り S T O 2 により光束径が規制された後、波長選択性を有するフィルタにより更に光束径が規制される。そして、第 2 の対物レンズ O B J 2 によって D V D の保護層 P L 2 を介して情報記録面 R L 2 上に形成されるスポットとなる。第 2 の対物レンズ O B J 2 は、その周辺に配置された 2 軸アクチュエータ A C によってフォーカシングやトラッキングを行う。情報記録面 R L 2 で情報ピットにより変調された反射光束は、再び第 2 の対物レンズ O B J 2、第 2 の絞り S T O 2、コリメートレンズ C O L を透過した後、収斂光束となり、偏光ビームスプリッタ B S により反射された後、プリズム P S 内部で 2 回反射され受光部 D S 1 に集光する。そして、受光部 D S 1 の出力信号を用いて D V D に記録された情報を読み取ることができる。

#### 【 0 0 8 5 】

上述したように、第 2 の対物レンズ O B J 2 は、第 2 の高密度光ディスク H D 2 に対して最適化された両面非球面プラスチックレンズであるので、第 2 の対物レンズ O B J 2 に対して 6 5 5 n m の光束が入射した場合、D V D の情報記録面 R L 2 上に集光されるスポットは、第 2 の対物レンズ O B J 2 の波長分散の影響で球面収差が補正過剰方向に変化する。そこで、D V D に対して情報の記録／再生を行う場合には、この球面収差変化が補正されるように、第 2 の対物レンズ O B J 2 との間隔を狭めてコリメートレンズ C O L と第 2 の対物レンズ O B J 2 との間隔を最適化してから（即ち、第 2 の対物レンズ O B J 2 の物点位置を最適化してから）D V D に対する情報の記録／再生を行う。

#### 【 0 0 8 6 】

更に、光ピックアップ装置 P U 2 において、C D に対して情報の記録／再生を

行う場合には、対物レンズユニット O U の対物レンズ切り替え手段により、第 2 の対物レンズ O B J 2 を発光点 E P 2 からの光束の光路中に挿入した後、発光点 E P 2 を発光させる。発光点 E P 2 から射出された発散光束は、図 2 において 2 点鎖線でその光線経路を描いたように、プリズム P S で反射された後、偏光ビームスプリッタ B S により反射され、コリメートレンズ C O L によって平行光束とされる。その後、第 2 の絞り S T O 2 により光束径が規制された後、波長選択性を有するフィルタにより更に光束径が規制される。そして、第 2 の対物レンズ O B J 2 によって C D の保護層 P L 3 を介して情報記録面 R L 3 上に形成されるスポットとなる。第 2 の対物レンズ O B J 2 は、その周辺に配置された 2 軸アクチュエータ A C 2 によってフォーカシングやトラッキングを行う。情報記録面 R L 3 で情報ピットにより変調された反射光束は、再び第 2 の対物レンズ O B J 2、第 2 の絞り S T O 2、コリメートレンズ C O L を透過した後、収斂光束となり、偏光ビームスプリッタ B S により反射された後、プリズム P S 内部で 2 回反射され受光部 D S 2 に集光する。そして、受光部 D S 2 の出力信号を用いて C D に記録された情報を読み取ることができる。

#### 【0087】

第 2 の対物レンズ O B J 2 は、第 2 の高密度光ディスク H D 2 に対して最適化された両面非球面プラスチックレンズであるので、第 2 の対物レンズ O B J 2 に対して 785 nm の光束が入射した場合、C D の情報記録面 R L 3 上に集光されるスポットは、第 2 の対物レンズ O B J 2 の波長分散と、第 2 の高密度光ディスクの保護層 P L 1 B と C D の保護層 P L 3 の違いの影響で球面収差が補正過剰方向に変化する。そこで、C D に対して情報の記録／再生を行う場合には、この球面収差変化が補正されるように、第 2 の対物レンズ O B J 2 との間隔を狭めて、コリメートレンズ C O L と第 2 の対物レンズ O B J 2 との間隔を最適化してから（即ち、第 2 の対物レンズ O B J 2 の物点位置を最適化してから）C D に対する情報の記録／再生を行う。

#### 【0088】

##### [第 3 の実施の形態]

図 4 は、高密度光ディスク H D と D V D と C D との何れに対しても適切に情報



の記録／再生を行える第3の光ピックアップ装置PU3の構成を概略的に示す図である。高密度光ディスクHDの光学的仕様は、波長405nm、保護層の厚さ0.6mm、開口数NA0.65であり、DVDの光学的仕様は、波長655nm、保護層の厚さ0.6mm、開口数NA0.63であり、CDの光学的仕様は、波長785nm、保護層の厚さ1.2mm、開口数NA0.50である。但し、波長、保護層の厚さ、及び開口数の組合せはこれに限られない。

光ピックアップ装置PU3は、高密度光ディスクHDに対して情報の記録／再生を行う場合に発光され405nmのレーザ光束を射出する第1の発光点EP1と、DVDに対して情報の記録／再生を行う場合に発光され655nmのレーザ光束を射出する第2の発光点EP2と、CDに対して情報の記録／再生を行う場合に発光され785nmのレーザ光束を射出する第3の発光点EP3と、高密度光ディスクHDの情報記録面RL1からの反射光束を受光する第1の受光部DS1と、DVDの情報記録面RL2からの反射光束を受光する第2の受光部DS2と、CDの情報記録面RL3からの反射光束を受光する第3の受光部DS3と、プリズムPSとから構成されたレーザモジュールLM、対物レンズOBJと2軸アクチュエータAC2と高密度光ディスクHDの開口数NA0.65に対応した絞りSTOとから構成された対物レンズユニットOU、コリメートレンズCOL、一对の光学的透明基板T1とT2に挟まれるように配設された一对の電極ELP1とELP2と、これらの電極ELP1及びELP2に更に挟まれるように配設された液晶分子層LCと、電極ELP1及びELP2に電圧を印可するための電源（図示せず）とを備える液晶素子LCDとから構成されている。

#### 【0089】

尚、高密度光ディスクHD用の光源として、上述の青紫色半導体レーザLD1の他に青紫色SHGレーザを使用することもできる。

また、対物レンズOBJは高密度光ディスクHDに対して最適化された両面非球面プラスチックレンズであり、その光源側の光学面上には、波長選択性を有するフィルタが形成されている。このフィルタは波長に応じて光束の通過領域を制限することで、DVDに対しては開口数NA0.63を実現し、CDに対しては開口数NA0.50を実現する。

かかる波長選択性を有するフィルタの代わりに、第27回光学シンポジウム講演予稿集の55～56頁に記載されているような回折構造を対物レンズOBJの光源側の光学面上に形成しても良い。

更に、対物レンズユニットOUには、図示は省略するが、2軸アクチュエータAC2の動作制御を行う動作制御回路が設けられている。

#### 【0090】

また、対物レンズOBJは、フォルダFにより液晶素子LCDと一体化されており、対物レンズOBJは液晶素子LCDと一体となってトラッキングやフォーカシングを行う。

コリメートレンズCOLは、色収差補正用光学ユニットとしての機能を備えており、コリメートレンズCOLの光学面上には、青紫色領域における対物レンズOBJの色収差を補正するための回折構造が形成されており、図4中の拡大図に示すように、その輪帯の段差の光軸方向の深さdは、波長405nmのレーザ光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数に対して、波長655nm及び波長785nmの光束が入射した場合に発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数がより低次数となるように設計されている。これにより、それぞれの波長領域において十分な回折効率が得られるとともに、青紫色領域で色収差を補正した場合でも、波長655nm及び波長785nmの波長領域における色収差補正が過剰になりすぎない。

#### 【0091】

また、液晶素子LCDは、球面収差補正用光学ユニットとしての機能を備えており、詳しい説明は後述するが、様々な要因で発生する、高密度光ディスクの情報記録面上のスポットの球面収差変化を補正することができる。このような液晶素子LCDにより球面収差変化を補正する技術は、例えば特開2001-43549号公報に記載されているので、ここでは詳細な記述はしない。

光ピックアップ装置PU3において、高密度光ディスクHDに対して情報の記録／再生を行う場合には、まず発光点EP1を発光させる。発光点EP1から射出された発散光束は、図4において実線でその光線経路を描いたように、プリズムPSで反射された後、偏光ビームスプリッタBSを透過し、コリメートレンズ

COLによって平行光束とされる。その後、液晶素子LCDを透過し、絞りSTOにより光束径が規制された後、対物レンズOBJによって高密度光ディスクHDの保護層PL1を介して情報記録面RL1上に形成されるスポットとなる。対物レンズOBJは、その周辺に配置された2軸アクチュエータAC2によってフォーカシングやトラッキングを行う。情報記録面RL1で情報ピットにより変調された反射光束は、再び対物レンズOBJ、絞りSTO、液晶素子LCD、及びコリメートレンズCOLを透過した後、収斂光束となり、偏光ビームスプリッタBSにより反射された後、プリズムPS内部で2回反射され受光部DS1に集光する。そして、受光部DS1の出力信号を用いて高密度光ディスクHDに記録された情報を読み取ることができる

#### 【0092】

高密度光ディスクHDに対して情報の記録／再生を行う際に、例えば、発光点EP1から射出させる青紫色レーザ光束の波長変化、保護層PL1の厚さ誤差、2層ディスクの情報記録面間のフォーカスジャンプ、環境温度変化や2軸アクチュエータAC2の発熱に伴う対物レンズOBJの屈折率変化、等の影響で情報記録面RL1上のスポットの球面収差が補正過剰方向に変化した場合は、電源により電極ELP1とELP2に電圧を印可して、液晶分子層LC内の屈折率分布を変化させることで、液晶素子LCDを透過する青紫色レーザ光束に補正不足の球面収差波面を付加させる。逆に、情報記録面RL1上のスポットの球面収差が補正不足方向に変化した場合は、電源により電極ELP1とELP2に電圧を印可して、液晶分子層LC内の屈折率分布を変化させることで、液晶素子LCDを透過する青紫色レーザ光束に補正過剰の球面収差波面を付加させる。これにより、情報記録面RL1上のスポットは常に球面収差が補正された状態となるので、高密度光ディスクHDに対して良好な記録／再生特性が得られる。

#### 【0093】

また、回折構造が形成された、コリメートレンズCOLと対物レンズOBJとを透過した波面は色収差が良好に補正された状態となるので、情報の再生から記録へと切り替える際に青紫色半導体レーザLD1がモードホッピングを起こしても、情報記録面RL1上に集光されたスポット径が大きくなることはない。

また、光ピックアップ装置 P U 3 において、D V D に対して情報の記録／再生を行う場合には、発光点 E P 2 を発光させる。発光点 E P 2 から射出された発散光束は、図 4 において破線でその光線経路を描いたように、プリズム P S で反射された後、偏光ビームスプリッタ B S により反射され、コリメートレンズ C O L によって平行光束とされる。その後、液晶素子 L C D を透過し、絞り S T O により光束径が規制され、対物レンズ O B J によって D V D の保護層 P L 2 を介して情報記録面 R L 2 上に形成されるスポットとなる。対物レンズ O B J は、その周辺に配置された 2 軸アクチュエータ A C 2 によってフォーカシングやトラッキングを行う。情報記録面 R L 2 で情報ピットにより変調された反射光束は、再び対物レンズ O B J 、絞り S T O 、液晶素子 L C D 、及びコリメートレンズ C O L を透過した後、収斂光束となり、偏光ビームスプリッタ B S により反射された後、プリズム P S 内部で 2 回反射され受光部 D S 1 に集光する。そして、受光部 D S 1 の出力信号を用いて D V D に記録された情報を読み取ることができる。

#### 【 0 0 9 4 】

上述したように、対物レンズ O B J は、高密度光ディスク H D に対して最適化された両面非球面プラスチックレンズであるので、対物レンズ O B J に対して 6 5 5 n m の光束が入射した場合、D V D の情報記録面 R L 2 上に集光されるスポットは、対物レンズ O B J の波長分散の影響で球面収差が補正過剰方向に変化する。そこで、D V D に対して情報の記録／再生を行う場合には、この球面収差変化が補正されるように、電源により電極 E L P 1 と E L P 2 に電圧を印可して、液晶分子層 L C 内の屈折率分布を変化させることで、液晶素子 L C D を透過する 6 5 5 n m の光束に補正不足の球面収差波面を付加する。これにより、液晶素子 L C D と対物レンズ O B J とを透過して D V D の情報記録面 R L 2 上に集光した 6 5 5 n m の光束は、球面収差が補正された状態となるので D V D に対する情報の記録／再生が可能となる。

#### 【 0 0 9 5 】

更に、光ピックアップ装置 P U 3 において、C D に対して情報の記録／再生を行う場合には、発光点 E P 3 を発光させる。発光点 E P 3 から射出された発散光束は、図 4 において 2 点鎖線でその光線経路を描いたように、プリズム P S で反

射された後、偏光ビームスプリッタBSにより反射され、コリメートレンズCOLによって平行光束とされる。その後、液晶素子LCDを透過し、絞りSTOにより光束径が規制され、対物レンズOBJによってCDの保護層PL3を介して情報記録面RL3上に形成されるスポットとなる。対物レンズOBJは、その周辺に配置された2軸アクチュエータAC2によってフォーカシングやトラッキングを行う。情報記録面RL3で情報ビットにより変調された反射光束は、再び対物レンズOBJ、絞りSTO、液晶素子LCD、及びコリメートレンズCOLを透過した後、収斂光束となり、偏光ビームスプリッタBSにより反射された後、プリズムPS内部で2回反射され受光部DS3に集光する。そして、受光部DS3の出力信号を用いてCDに記録された情報を読み取ることができる。

#### 【0096】

対物レンズOBJは、高密度光ディスクHDに対して最適化された両面非球面プラスチックレンズであるので、対物レンズOBJに対して785nmの光束が入射した場合、CDの情報記録面RL3上に集光されるスポットは、対物レンズOBJの波長分散と高密度光ディスクの保護層PL1とCDの保護層PL3の違いの影響で球面収差が補正過剰方向に変化する。そこで、CDに対して情報の記録／再生を行う場合には、この球面収差変化が補正されるように、電源により電極ELP1とELP2に電圧を印可して、液晶分子層LC内の屈折率分布を変化させることで、液晶素子LCDを透過する785nmの光束に補正不足の球面収差波面を付加する。これにより、液晶素子LCDと対物レンズOBJとを透過してCDの情報記録面RL3上に集光した785nmの光束は、球面収差が補正された状態となるのでCDに対する情報の記録／再生が可能となる。

#### 【0097】

##### 【実施例】

次に、上述した光ピックアップ装置PU1におけるエキスパンダーレンズEXP及び対物レンズOBJとして好適な光学系である実施例1と、光ピックアップ装置PU2におけるコリメートレンズCOL、第1の対物レンズOBJ1、及び第2の対物レンズOBJ2として好適な光学系である実施例2について説明する。

。

各実施例における非球面は、その面の頂点に接する平面からの変形量を  $X$  (mm)、光軸に垂直な方向の高さを  $h$  (mm)、曲率半径を  $r$  (mm) とするとき、次の数 1 で表される。ただし、 $\kappa$  を円錐係数、 $A_{2i}$  を非球面係数とする。

【0098】

【数 1】

$$X = \frac{h^2/r}{1 + \sqrt{1 - (1 + \kappa)h^2/r^2}} + \sum_{i=2} A_{2i} h^{2i}$$

また、各実施例における回折構造は、この回折構造により透過波面に付加される光路差で表される。かかる光路差は、光軸に垂直な方向の高さを  $h$  (mm)、 $B_{2j}$  を光路差関数係数、 $n$  を入射光束の回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数とするとき次の数 2 で定義される光路差関数  $\Phi_b$  (mm) で表される。

【0099】

【数 2】

$$\Phi_b = n \times \sum_{j=0} B_{2j} h^{2j}$$

【0100】

[実施例 1]

実施例 1 は、光ピックアップ装置 PU1 におけるエキスパンダーレンズ EXP 及び対物レンズ OBJ として好適な光学系であって、波長 405 nm、0.6 mm の厚さの保護層に対して、収差補正が最適化されたプラスチックレンズである対物レンズ OBJ と、負レンズ NL と正レンズ PL の 2 枚のプラスチックレンズから構成されたエキスパンダーレンズ EXP と、から構成されている。

表 1 に、この光学系の具体的なレンズデータを示し、図 5 に、高密度光ディスク HD に対して情報の記録／再生を行うときの光路図を示し、図 6 に、DVD に対して情報の記録／再生を行うときの光路図を示し、図 7 に、CD に対して情報

の記録／再生を行うときの光路図を示す。

【表 1】

$f1=2.308$ ,  $NA1=0.65$ ,  $\lambda 1=405nm$ ,  $m1=0.00$ ,  $n1=10$ ,  $d2=2.000$ ,  $d6=1.059$ ,  $d7=0.6$   
 $f2=2.385$ ,  $NA2=0.63$ ,  $\lambda 2=655nm$ ,  $m2=-0.02$ ,  $n2=6$ ,  $d2=1.510$ ,  $d6=1.172$ ,  $d7=0.6$   
 $f3=2.392$ ,  $NA3=0.50$ ,  $\lambda 3=785nm$ ,  $m3=-0.09$ ,  $n3=5$ ,  $d2=0.100$ ,  $d6=0.936$ ,  $d7=1.2$

近軸値

面番号	$r$ (mm)	$d$ (mm)	$N \lambda 1$	$N \lambda 2$	$N \lambda 3$	$\nu d$
0	—	$\infty$	—	—		—
1	-2.4275	0.8000	1.5247	1.5065	1.5050	56.5
2	$\infty$	$d2$	—	—		—
3	$\infty$	1.3000	1.5247	1.5065	1.5050	56.5
4	-5.5265	5.0000	—	—		—
5	1.4461	1.6000	1.5247	1.5065	1.5050	56.5
6	-4.6094	$d6$	—	—		—
7	$\infty$	$d7$	1.6195	1.5772	1.57050	30.0
8	$\infty$	—	—	—		—

非球面係数

	第 1 面	第 4 面	第 5 面	第 6 面
$\kappa$	-0.8860E+00	-9.8200E-01	-0.6905E+00	-0.1166E+02
A4	-0.6345E-05	6.0653E-04	0.6960E-02	0.3525E-01
A6	-0.1949E-03	0	0.1261E-02	-0.1316E-01
A8	0	0	0.6829E-03	0.3206E-02
A10	0	0	-0.1649E-03	-0.3705E-03
A12	0	0	0.5041E-04	0

光路差関数係数

	第 4 面
$\lambda B$	405nm
B2	-1.5000E-03
B4	-4.0136E-05

【0 1 0 1】

表 1 において、 $f 1$ 、 $NA 1$ 、 $\lambda 1$ 、 $m 1$ 、 $n 1$ は高密度光ディスク HD 使用時の、対物レンズ OBJ の焦点距離、対物レンズ OBJ の開口数、光学系の設計

波長、対物レンズOBJの倍率、回折構造で発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数であり、 $f_2$ 、 $NA_2$ 、 $\lambda_2$ 、 $m_2$ 、 $n_2$ はDVD使用時の同様の値であり、 $f_3$ 、 $NA_3$ 、 $\lambda_3$ 、 $m_3$ 、 $n_3$ はCD使用時の同様の値である。また、 $d_2$ 、 $d_6$ 、 $d_7$ はそれぞれの光ディスク使用時における負レンズNLと正レンズPLの間隔、保護層の厚さ、作動距離である。また、 $r$  (mm) は曲率半径、 $d$  (mm) は面間隔、 $N_{\lambda_1}$ は波長 $\lambda_1$ における屈折率、 $N_{\lambda_2}$ は波長 $\lambda_2$ における屈折率、 $N_{\lambda_3}$ は波長 $\lambda_3$ における屈折率、 $\nu_d$ はd線におけるアッペ数を、 $\lambda_B$ は回折構造の製造波長を表す。

### 【0102】

正レンズPLの対物レンズOBJ側の光学面(表1において第4面)には、回折構造が形成されており、その光軸に最も近い段差の深さは、 $7.6\mu\text{m}$ である。この回折構造に青紫色半導体レーザLD1からのレーザ光束が入射すると、10次回折光が最大の回折効率を有するように発生し、レーザモジュールLMの第1の発光点EP1からのレーザ光束が入射すると、6次回折光が最大の回折効率を有するように発生し、レーザモジュールLMの第2の発光点EP2からのレーザ光束が入射すると、5次回折光が最大の回折効率を有するように発生する。

この構成によると、各波長の各回折次数での回折効率は、それぞれ、 $405\text{nm}$ に対する10次回折光が100%、 $655\text{nm}$ に対する6次回折光が99.7%、 $785\text{nm}$ に対する5次回折光が99.6%となり、いずれの波長に対しても高い回折効率を確保できる。

### 【0103】

この回折構造による青紫色領域での対物レンズOBJの色収差補正効果を図8に示す。図中、「OBJ+EXP」は、対物レンズOBJとエキスパンダーレンズEXPから構成される光学系の特性を示し、「OBJ」は対物レンズOBJの特性を示す。また、波面収差を計算する際には、対物レンズOBJは $405\text{nm}$ での最良像面位置に固定されている。図8から、対物レンズOBJとエキスパンダーレンズEXPから構成される光学系は、青紫色半導体レーザLD1のモードホッピングによる波長変化(+1nm程度)に対して十分な性能を有するといえる。



この光学系においては、高密度光ディスクHDに対する情報の記録／再生中に、エキスパンダーレンズEXPの負レンズNLと正レンズPLとの間隔を可変調整することで、様々な要因で発生する球面収差を補正することが可能である。

#### 【0104】

図9に、その一例として、温度変化により対物レンズOBJで発生する球面収差の補正結果を示す。図中、「OBJ+EXP」は、対物レンズOBJとエキスパンダーレンズEXPから構成される光学系の特性を示し、「OBJ」は対物レンズOBJの特性を示し、「EXP間隔」は、各温度に対する負レンズNLと正レンズPLの最適間隔を示す。対物レンズOBJの温度変化に対する屈折率の変化量は、 $-1.1 \times 10^{-5}/^{\circ}\text{C}$ である。図9から、対物レンズOBJとエキスパンダーレンズEXPから構成される光学系は、環境温度変化や2軸アクチュエータAC2の発熱により対物レンズOBJの温度が変化した場合でも良好な性能を維持できるといえる。

また、DVDに対しては、負レンズNLと正レンズPLの間隔を1.51mmとし、対物レンズOBJに対して発散光束が入射するようにして、対物レンズOBJの波長分散で発生する球面収差を補正した状態で、情報の記録／再生を行う。

#### 【0105】

更に、CDに対しては、負レンズNLと正レンズPLの間隔を0.10mmとし、対物レンズOBJに対して発散光束が入射するようにして、対物レンズOBJの波長分散で発生する球面収差と、高密度光ディスクHDとCDの保護層の厚さ違いによる球面収差を補正した状態で、情報の記録／再生を行う。

#### 【0106】

##### [実施例2]

実施例2は、光ピックアップ装置PU2におけるコリメートレンズCOL、第1の対物レンズOBJ1及び第2の対物レンズOBJ2として好適な光学系であって、波長405nm、0.1mmの厚さの保護層に対して、収差補正が最適化された2群2枚構成のプラスチックレンズである第1の対物レンズOBJ1と、波長405nm、0.6mmの厚さの保護層に対して、収差補正が最適化された

プラスチックレンズである第 2 の対物レンズ O B J 2 と、プラスチックレンズであるコリメートレンズ C O L と、から構成されている。

【 0 1 0 7 】

表 2 に、第 1 の対物レンズ O B J 1 とコリメートレンズ C O L とから構成される光学系の具体的なレンズデータを示し、表 3 に、第 2 の対物レンズ O B J 2 とコリメートレンズ C O L とから構成される光学系の具体的なレンズデータを示し、図 1 0 に、第 1 の高密度光ディスク H D 1 に対して情報の記録／再生を行うときの光路図を示し、図 1 1 に、第 2 の高密度光ディスク H D 2 に対して情報の記録／再生を行うときの光路図を示し、図 1 2 に、D V D に対して情報の記録／再生を行うときの光路図を示し、図 1 3 に、C D に対して情報の記録／再生を行うときの光路図を示す。

【表 2】

$f1=1.765$ ,  $NA1=0.85$ ,  $\lambda 1=405nm$ ,  $m1=0.00$ ,  $n1=2$

## 近軸値

面番号	$r$ (mm)	$d$ (mm)	$N \lambda 1$	$N \lambda 2$	$N \lambda 3$	$\nu d$
0	—	13.5332	—	—	—	—
1	-60.0547	2.0000	1.5247	1.5065	1.5050	56.5
2	-12.6988	10.0000	—	—	—	—
3	2.0993	2.5000	1.5247	1.5065	1.5050	56.5
4	7.4878	0.0500	—	—	—	—
5	0.8495	1.1000	1.5247	1.5065	1.5050	56.5
6	$\infty$	0.2396	—	—	—	—
7	$\infty$	0.1000	1.6195	1.5772	1.57050	30.0
8	$\infty$	—	—	—	—	—

## 非球面係数

	第 2 面	第 3 面	第 4 面	第 5 面
$\kappa$	-1.1627E-01	-0.1297E+00	0.4212E+02	-0.7523E+00
A4	-8.5920E-06	-0.3325E-02	0.7053E-02	0.1335E+00
A6	0	-0.6201E-04	-0.1832E-01	0.8649E-02
A8	0	-0.5159E-03	0.9122E-02	0.2157E+00
A10	0	-0.1181E-03	-0.6431E-02	-0.1010E+00
A12	0	-0.6648E-04	-0.7441E-02	0
A14	0	0.1212E-03	0	0
A16	0	-0.39442E-04	0	0

## 光路差関数係数

	第 2 面
$\lambda B$	390nm
B2	-8.0000E-03
B4	-7.3601E-06

表 2 において、 $f 1$ 、 $NA 1$ 、 $\lambda 1$ 、 $m 1$ 、 $n 1$ は第 1 の高密度光ディスク H D 1 使用時の、第 1 の対物レンズ O B J 1 の焦点距離、第 1 の対物レンズ O B J 1 の開口数、光学系の設計波長、第 1 の対物レンズ O B J 1 の倍率、回折構造で発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数である。また、

$r$  (mm) は曲率半径、 $d$  (mm) は面間隔、 $N_{\lambda 1}$  は波長  $\lambda 1$  における屈折率、 $N_{\lambda 2}$  は波長  $\lambda 2$  における屈折率、 $N_{\lambda 3}$  は波長  $\lambda 3$  における屈折率、 $\nu d$  は  $d$  線におけるアッベ数を表し、 $\lambda B$  は、回折構造の製造波長を表す。

【0108】

表 3 において、 $f 1$ 、 $NA 1$ 、 $\lambda 1$ 、 $m 1$ 、 $n 1$  は第 2 の高密度光ディスク H D 2 使用時の、第 2 の対物レンズ O B J 2 の焦点距離、第 2 の対物レンズ O B J 2 の開口数、光学系の設計波長、第 2 の対物レンズ O B J 2 の倍率、回折構造で発生する回折光のうち最大の回折効率を有する回折光の回折次数であり、 $f 2$ 、 $NA 2$ 、 $\lambda 2$ 、 $m 2$ 、 $n 2$  は D V D 使用時の同様の値であり、 $f 3$ 、 $NA 3$ 、 $\lambda 3$ 、 $m 3$ 、 $n 3$  は C D 使用時の同様の値である。また、 $d 0$ 、 $d 2$ 、 $d 4$ 、 $d 5$  はそれぞれの光ディスク使用時における物体距離、コリメートレンズ C O L と第 2 の対物レンズ O B J 2 の間隔、保護層の厚さ、作動距離である。また、 $r$  (mm) は曲率半径、 $d$  (mm) は面間隔、 $N_{\lambda 1}$  は波長  $\lambda 1$  における屈折率、 $N_{\lambda 2}$  は波長  $\lambda 2$  における屈折率、 $N_{\lambda 3}$  は波長  $\lambda 3$  における屈折率、 $\nu d$  は  $d$  線におけるアッベ数を表す。

【表 3】

$f1=2.308$ ,  $NA1=0.65$ ,  $\lambda 1=405nm$ ,  $m1=0.00$ ,  $n1=2$ ,  $d0=13.5332$ ,  $d2=10.0000$ ,  
 $d4=1.059$ ,  $d5=0.6$   
 $f2=2.385$ ,  $NA2=0.63$ ,  $\lambda 2=655nm$ ,  $m2=-0.02$ ,  $n2=1$ ,  $d0=12.8785$ ,  $d2=7.5500$ ,  
 $d4=1.172$ ,  $d5=0.6$   
 $f3=2.392$ ,  $NA3=0.50$ ,  $\lambda 3=785nm$ ,  $m3=-0.09$ ,  $n3=1$ ,  $d0=6.1285$ ,  $d2=14.3000$ ,  
 $d4=0.936$ ,  $d5=1.2$

近軸値

面番号	r (mm)	d (mm)	N $\lambda$ 1	N $\lambda$ 2	N $\lambda$ 3	$\nu$ d
0	—	d0	—	—		—
1	-60.0547	2.0000	1.5247	1.5065	1.5050	56.5
2	-12.6988	d2	—	—		—
3	1.4461	1.6000	1.5247	1.5065	1.5050	56.5
4	-4.6094	d4	—	—		—
5	$\infty$	d5	1.6195	1.5772	1.57050	30.0
6	$\infty$	—	—	—		—

非球面係数

	第 2 面	第 5 面	第 6 面
$\kappa$	-1.1627E-01	-0.6906E+00	-0.1166E+02
A4	-8.5920E-06	0.6960E-02	0.3525E-01
A6	0	0.1261E-02	-0.1316E-01
A8	0	0.6829E-03	0.3206E-02
A10	0	-0.1649E-03	-0.3705E-03
A12	0	0.5041E-04	0

光路差関数係数

	第 2 面
$\lambda B$	390nm
B2	-8.0000E-03
B4	-7.3601E-06

【0 1 0 9】

コリメートレンズ C O L の対物レンズ O B J 側の光学面（表 2、及び表 3 において第 2 面）には、回折構造が形成されており、その光軸に最も近い段差の深さ

は、 $1.48\mu\text{m}$ である。この回折構造に青紫色半導体レーザLD1からのレーザ光束が入射すると、2次回折光が最大の回折効率を有するように発生し、レーザモジュールLMの第1の発光点EP1からのレーザ光束が入射すると、1次回折光が最大の回折効率を有するように発生し、レーザモジュールLMの第2の発光点EP2からのレーザ光束が入射すると、1次回折光が最大の回折効率を有するように発生する。

この構成によると、各波長の各回折次数での回折効率は、それぞれ、 $405\text{nm}$ に対する2次回折光が97.7%、 $655\text{nm}$ に対する1次回折光が93.4%、 $785\text{nm}$ に対する1次回折光が99.2%となり、いずれの波長に対しても高い回折効率を確保できる。

### 【0110】

この回折構造による青紫色領域での第1の対物レンズOBJ1の色収差補正効果を図14に示す。図中、「OBJ+COL」は、第1の対物レンズOBJ1とコリメートレンズCOLから構成される光学系の特性を示し、「OBJ」は第1の対物レンズOBJ1の特性を示す。

更に、この回折構造による青紫色領域での第2の対物レンズOBJ2の色収差補正効果を図15に示す。図中、「OBJ+COL」は、第2の対物レンズOBJ2とコリメートレンズCOLから構成される光学系の特性を示し、「OBJ」は第2の対物レンズOBJ2の特性を示す。

図14及び図15において、波面収差を計算する際には、これらの対物レンズOBJ1、OBJ2は $405\text{nm}$ での最良像面位置に固定されている。図14及び図15から、第1の対物レンズOBJ1とコリメートレンズCOLから構成される光学系と第2の対物レンズOBJ2とコリメートレンズCOLから構成される光学系は、共に、青紫色半導体レーザLD1のモードホッピングによる波長変化（ $+1\text{nm}$ 程度）に対して十分な性能を有するといえる。

この光学系においては、第1の高密度光ディスクHD1及び第2の高密度光ディスクHD2に対する情報の記録／再生中に、コリメートレンズCOLと対物レンズOBJ1、OBJ2との間隔を可変調整することで、様々な要因で発生する球面収差を補正することが可能である。

## 【0111】

図16に、その一例として、第1の高密度光ディスクHD1の保護層の厚さ変化により発生する球面収差の補正結果を示す。図中、「OBJ+COL」は、第1の対物レンズOBJ1とコリメートレンズCOLから構成される光学系の特性を示し、「OBJ」は第1の対物レンズOBJ1の特性を示し、「COL-OBJ間隔」は、各保護層厚さに対するコリメートレンズCOLと第1の対物レンズOBJ1との最適間隔を示す。図16から、第1の対物レンズOBJ1とコリメートレンズCOLから構成される光学系は、複数の情報記録面層を有するタイプの第1の高密度光ディスクHD1に対しても良好な性能を維持できるといえる。

また、DVDに対しては、第2の対物レンズOBJ2とコリメートレンズCOLから構成される光学系において、コリメートレンズCOLと第2の対物レンズOBJ2の間隔を7.55mm（従って、レーザモジュールLMの第1の発光点EP1とコリメートレンズCOLとの間隔は12.8785mm）とし、第2の対物レンズOBJ2に対して発散光束が入射するようにして、第2の対物レンズOBJ2の波長分散で発生する球面収差を補正した状態で、情報の記録／再生を行う。

## 【0112】

更に、CDに対しては、第2の対物レンズOBJ2とコリメートレンズCOLから構成される光学系において、コリメートレンズCOLと第2の対物レンズOBJ2の間隔を14.3mm（従って、レーザモジュールLMの第2の発光点EP2とコリメートレンズCOLとの間隔は6.1285mm）とし、第2の対物レンズOBJ2に対して発散光束が入射するようにして、第2の対物レンズOBJ2の波長分散で発生する球面収差と、第2の高密度光ディスクHD2とCDの保護層の厚さ違いによる球面収差を補正した状態で、情報の記録／再生を行う。

尚、上述の実施例2における、コリメートレンズCOLと第2の対物レンズOBJ2から構成される光学系は、光ピックアップ装置PU3におけるコリメートレンズCOL及び対物レンズOBJとして使用することが可能である。

## 【0113】

## 【発明の効果】

本発明によれば、レーザ光源波長が異なる高密度光ディスク、DVD、及びCD等の複数種類の光ディスクに対して互換性を維持しながら適切に情報を記録／再生を行え、小型化、軽量化、低コスト化に適した光ピックアップ装置、光情報記録再生装置、エキスパンダーレンズ、及びカップリングレンズを得られる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

光ピックアップ装置の構成を示す要部平面図である。

【図 2】

光ピックアップ装置の構成を示す要部平面図である。

【図 3】

対物レンズユニットの斜視図である。

【図 4】

光ピックアップ装置の構成を示す要部平面図である。

【図 5】

高密度光ディスクに対して情報の記録／再生を行うときの光路図である。

【図 6】

DVDに対して情報の記録／再生を行うときの光路図である。

【図 7】

CDに対して情報の記録／再生を行うときの光路図である。

【図 8】

青紫色領域での対物レンズの色収差補正効果を示すグラフである。

【図 9】

温度変化により対物レンズで発生する球面収差の補正結果を示すグラフである。

【図 1 0】

第 1 の高密度光ディスクに対して情報の記録／再生を行うときの光路図である。

【図 1 1】

第 2 の高密度光ディスクに対して情報の記録／再生を行うときの光路図である。



。

## 【図 1 2】

D V D に対して情報の記録／再生を行うときの光路図である。

## 【図 1 3】

C D に対して情報の記録／再生を行うときの光路図である。

## 【図 1 4】

青紫色領域での第 1 の対物レンズの色収差補正効果を示すグラフである。

## 【図 1 5】

青紫色領域での第 2 の対物レンズの色収差補正効果を示すグラフである。

## 【図 1 6】

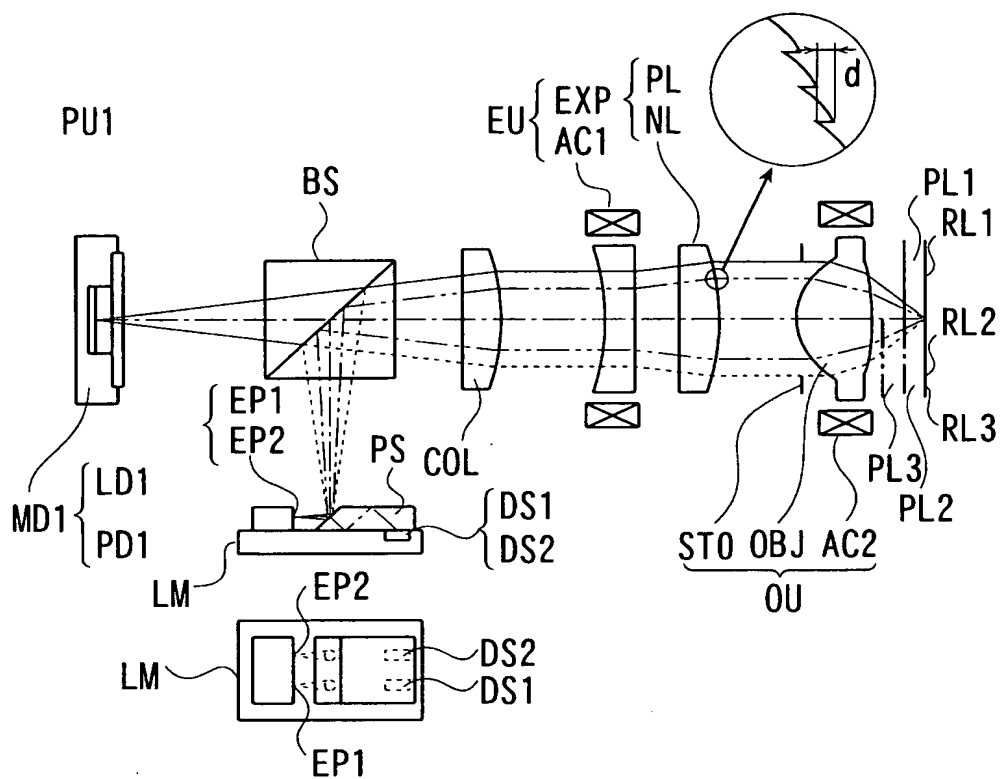
第 1 の高密度光ディスクの保護層の厚さ変化により発生する球面収差の補正結果を示すグラフである。

## 【符号の説明】

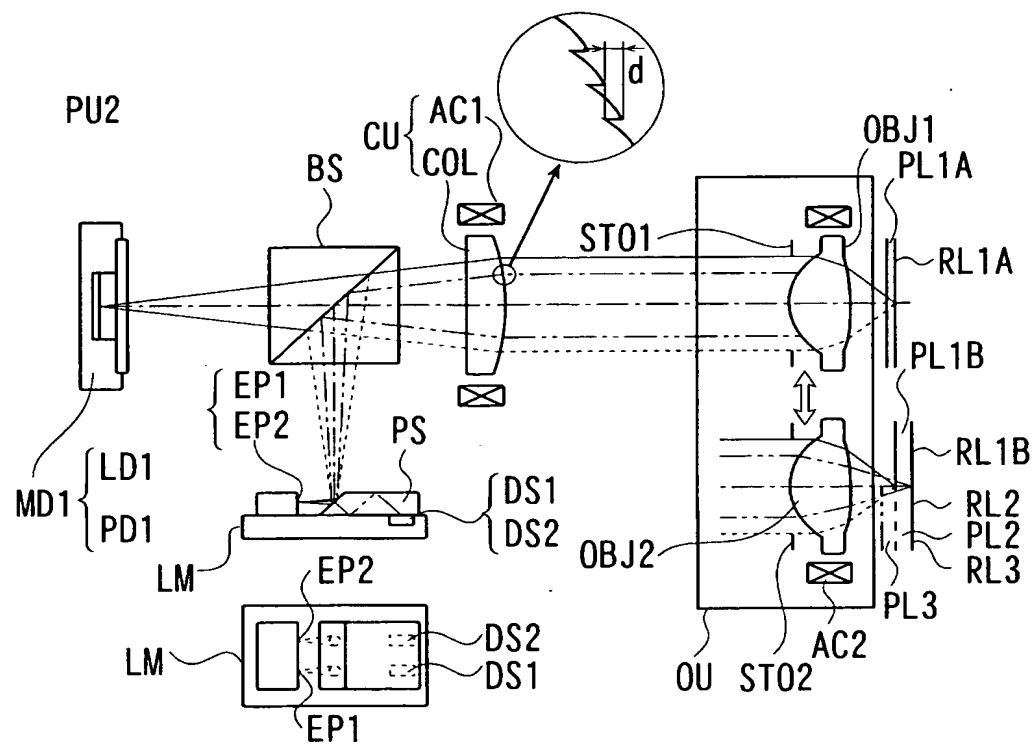
- O U 対物レンズユニット
- P U 光ピックアップ装置
- E X P エキスパンダーレンズ
- C U カップリングレンズ

【書類名】 図面

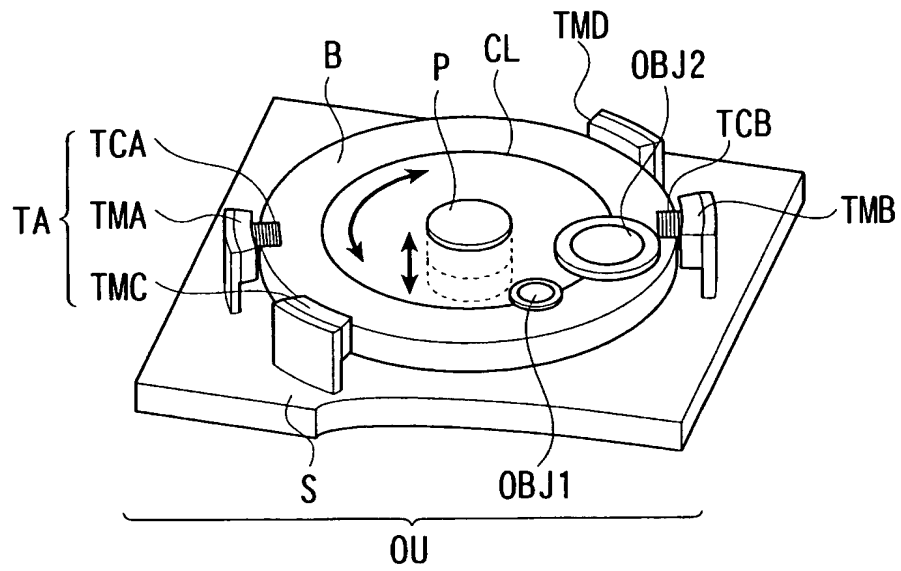
【図 1】



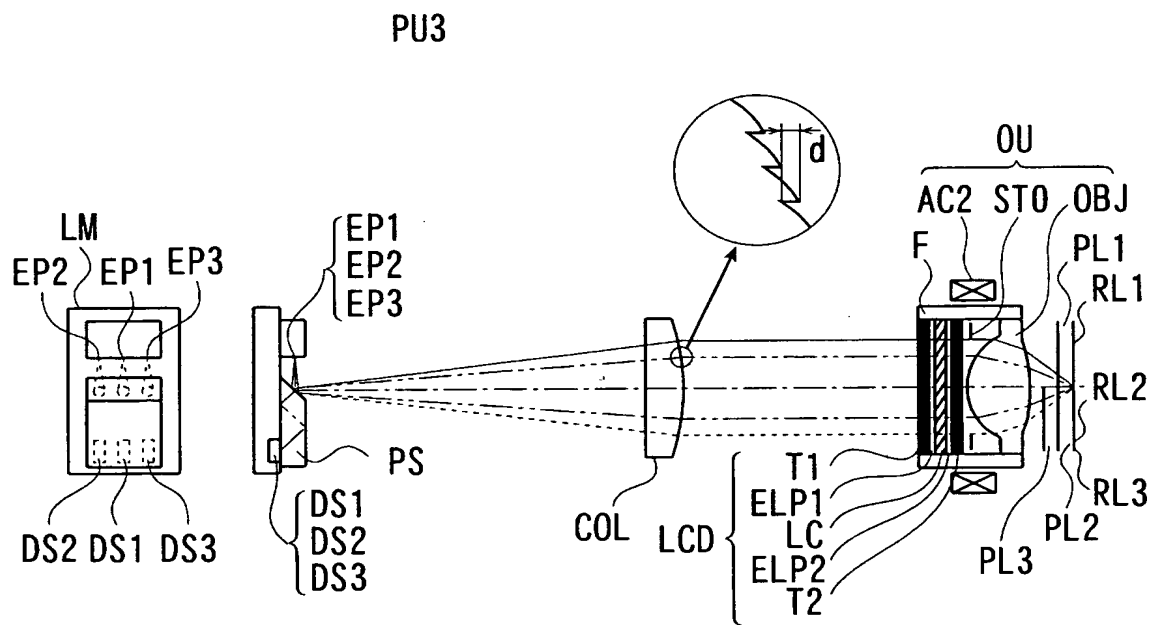
【図 2】



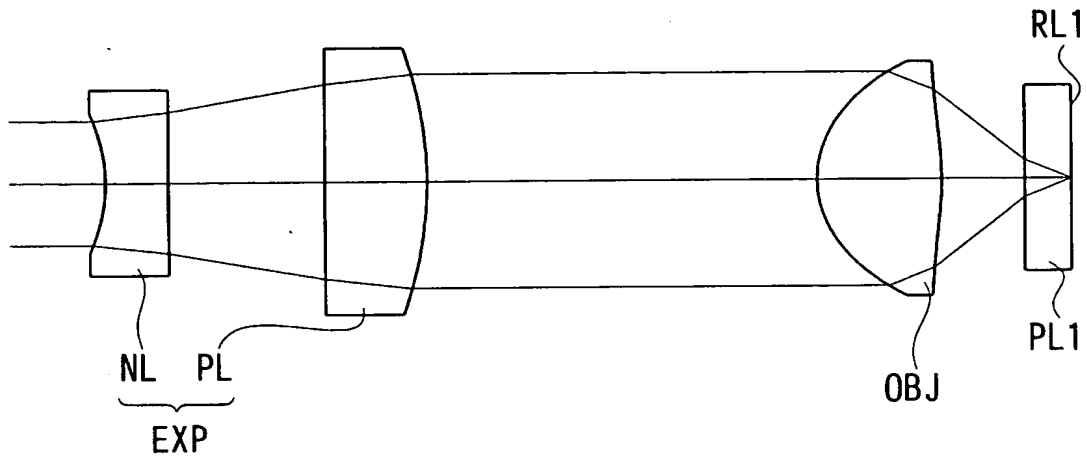
【図 3】



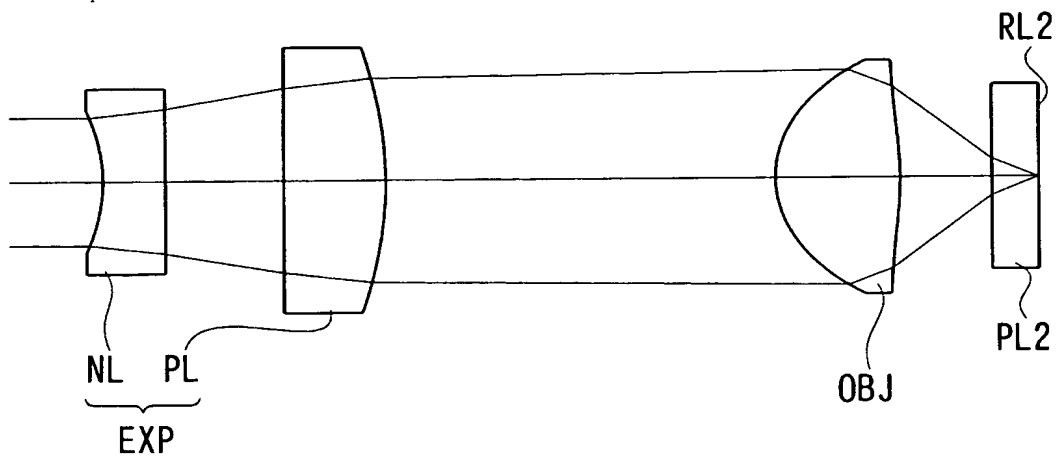
【図 4】



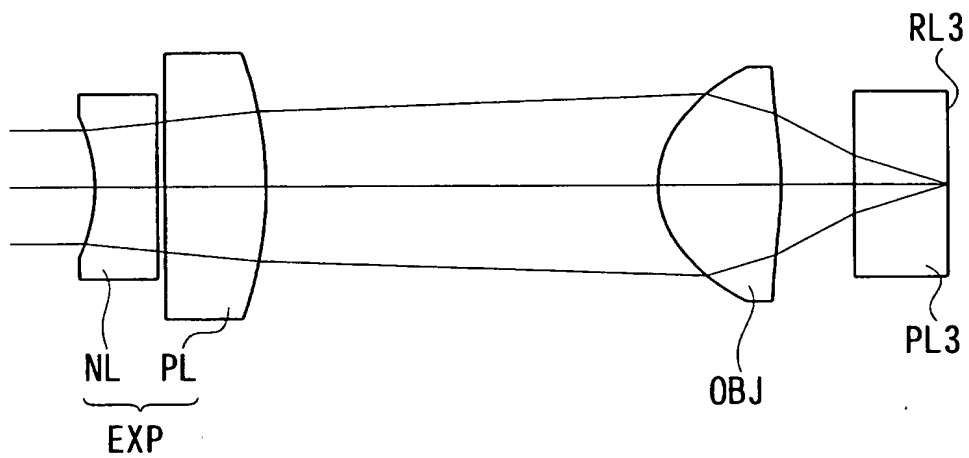
【図 5】



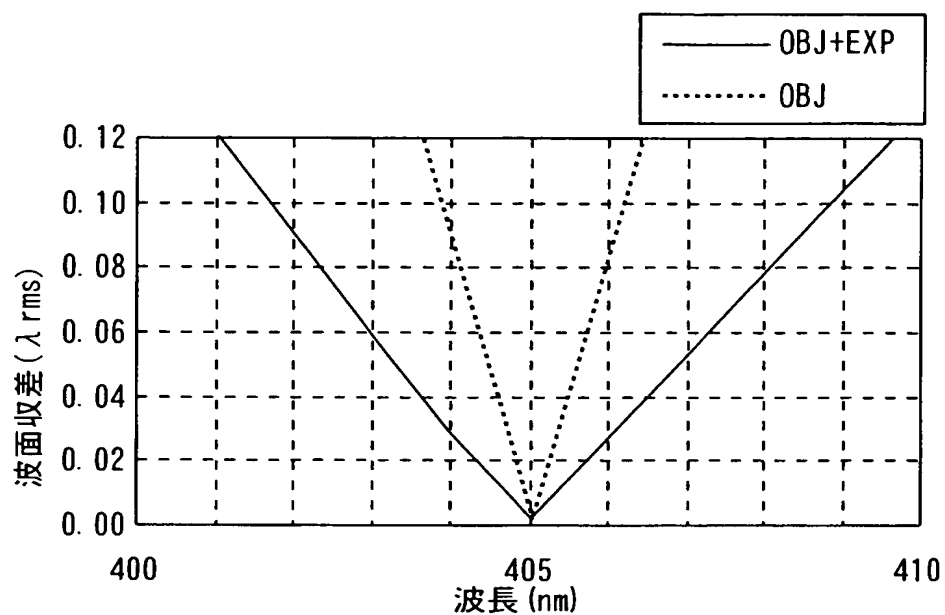
【図 6】



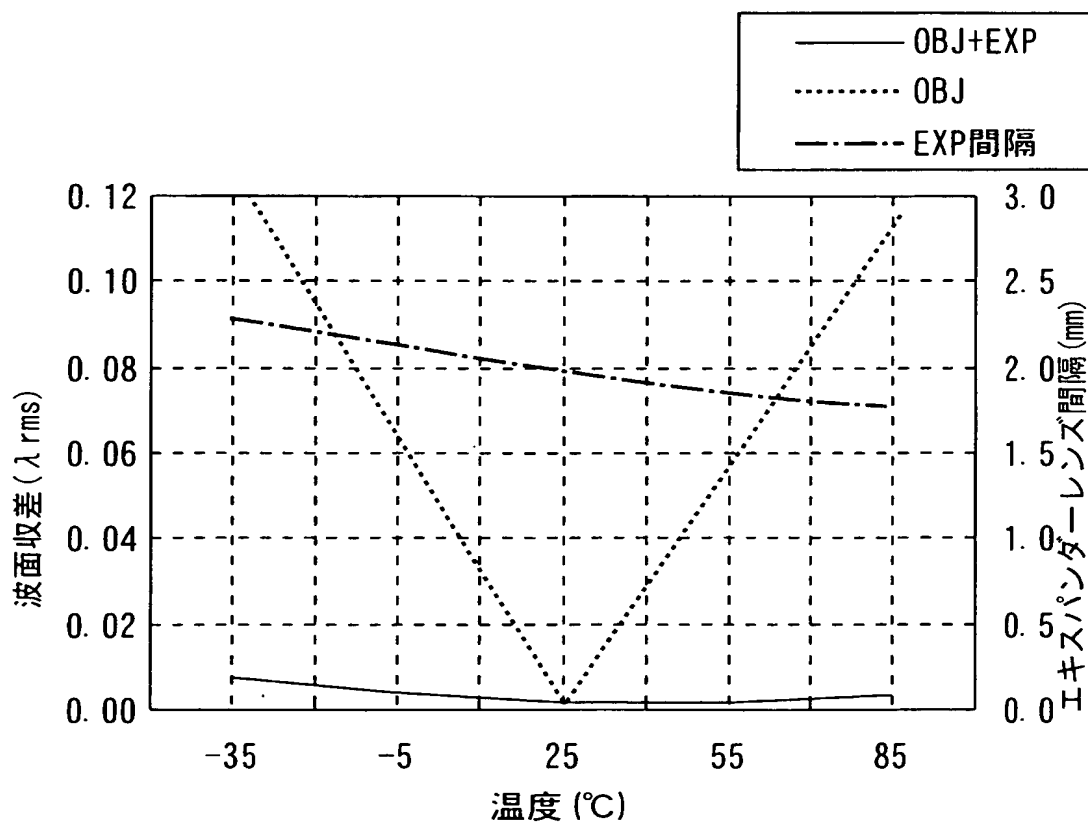
【図 7】



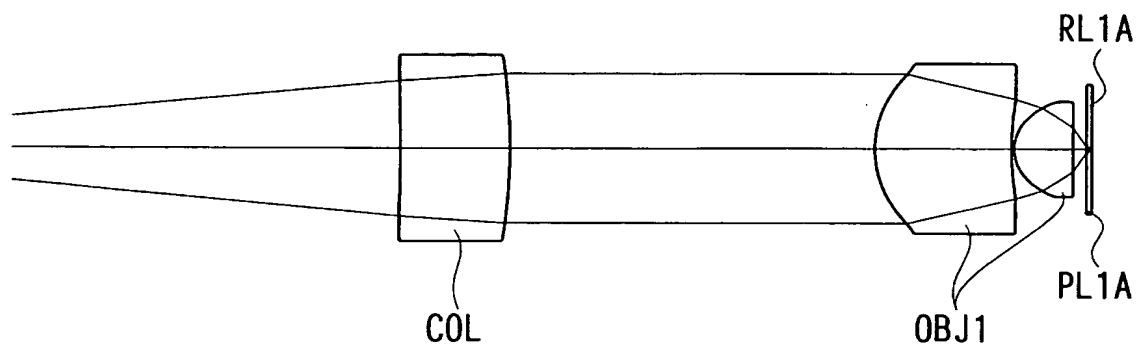
【図 8】



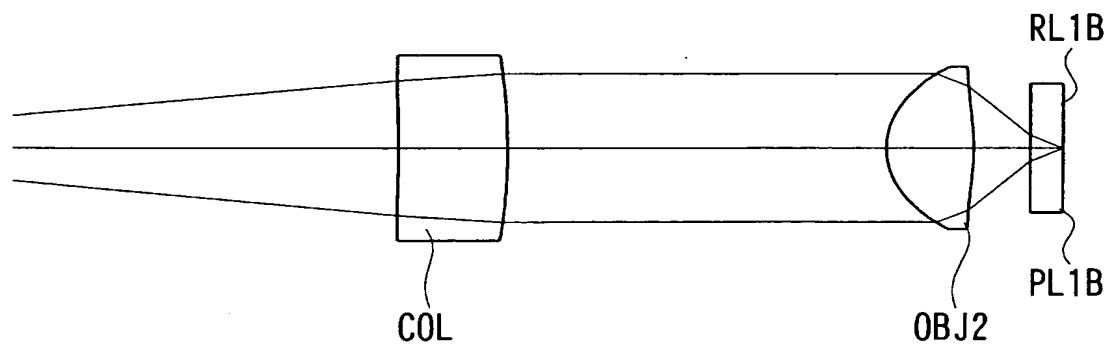
【図 9】



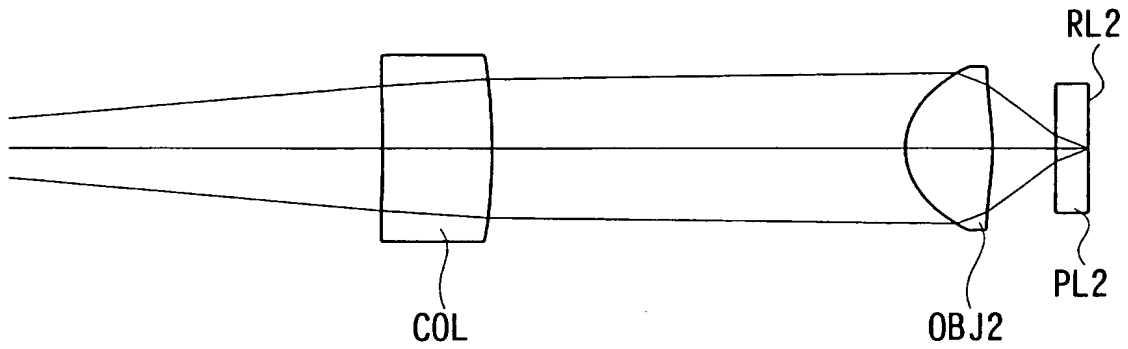
【図 10】



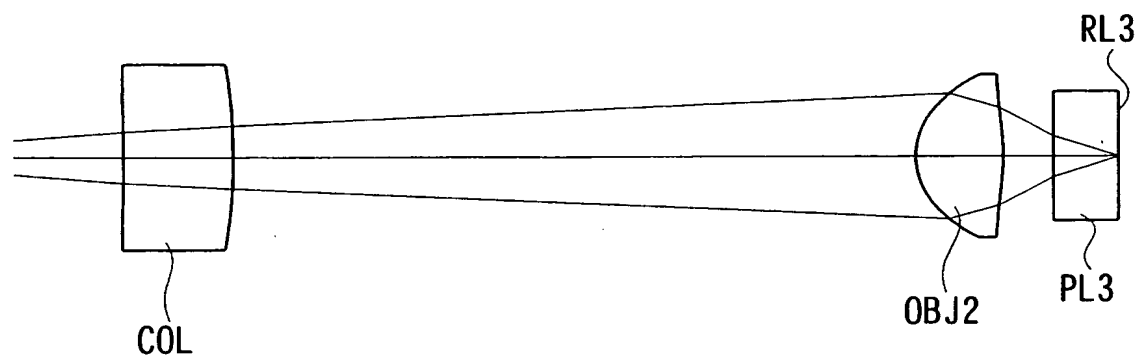
【図 11】



【図 1 2】

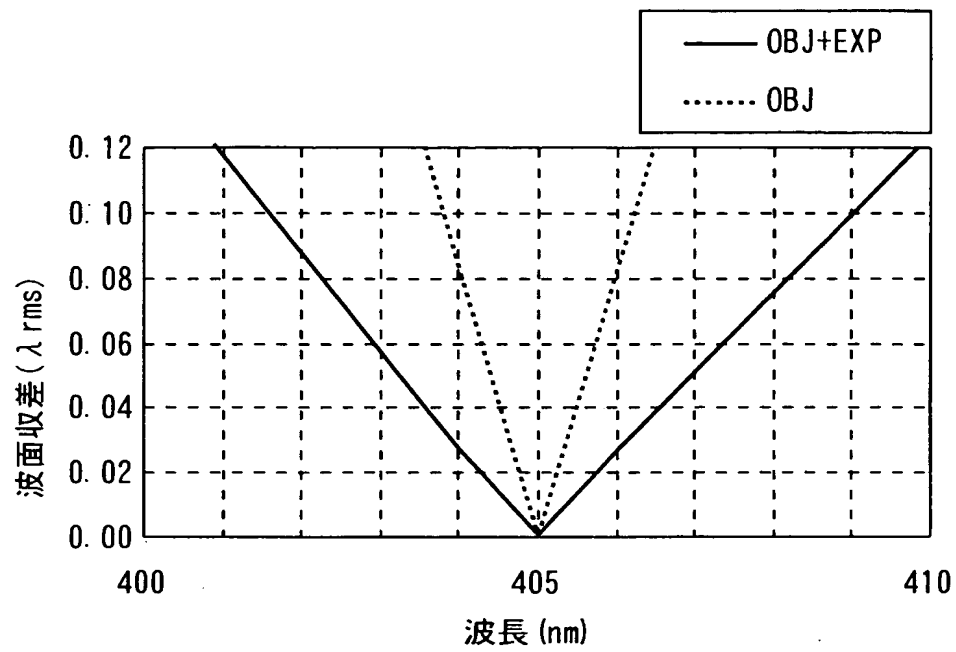


【図 1 3】

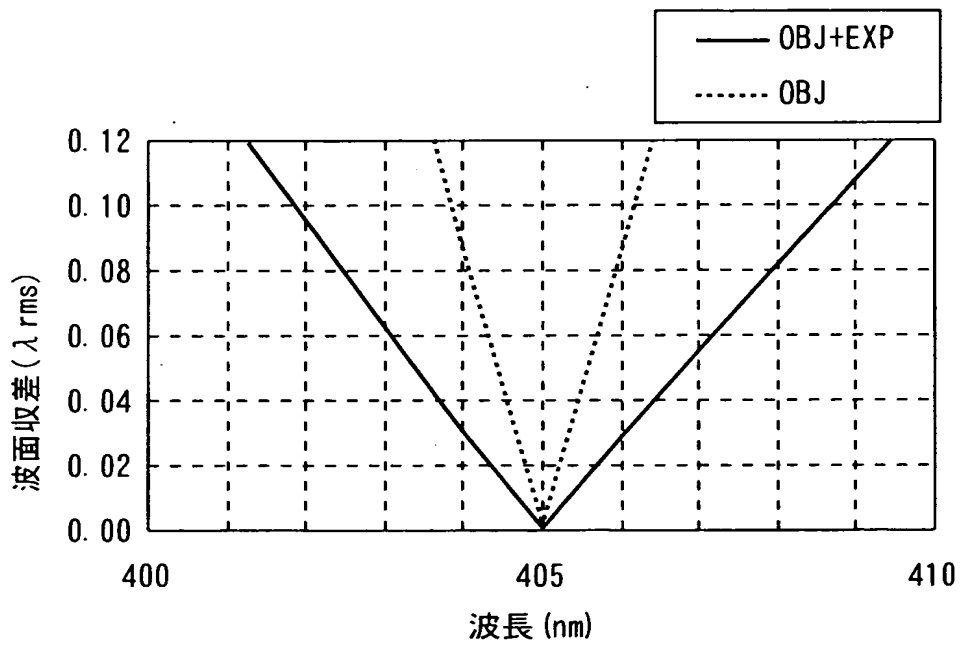




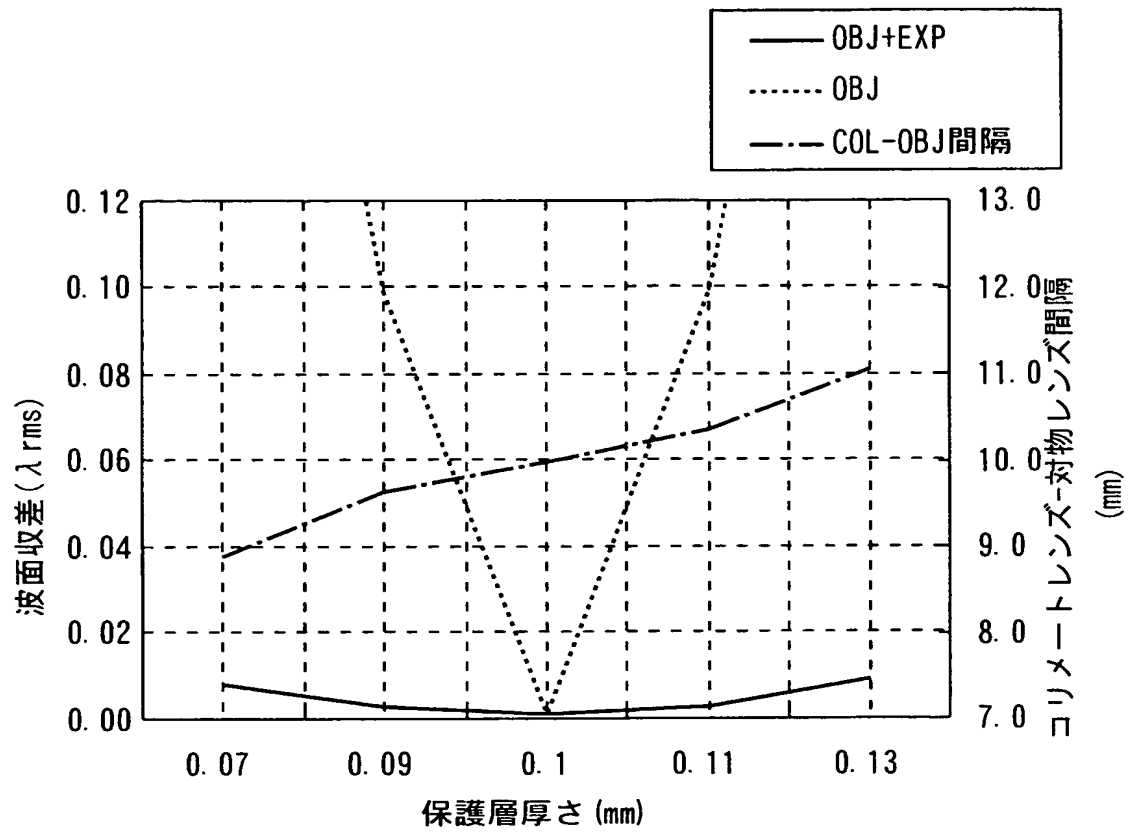
【図 14】



【図 15】



【図 16】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 レーザ光源波長が異なる高密度光ディスク等の複数種類の光ディスクに対して互換性を維持しつつ、且つ小型化等に適した光ピックアップ装置、光情報記録再生装置、エキスパンダーレンズ、及びカップリングレンズを提供する。

【解決手段】 光ピックアップ装置が、波長 $\lambda 1$ と波長 $\lambda 2$ の光束を射出する光源、対物レンズユニット、光源と対物レンズユニットとの間であって第1光束及び第2光束の共通光路中に配置される色収差補正用光学ユニット及び球面収差補正用光学ユニットを備える。そして、球面収差補正用光学ユニットが、その構成レンズ群と対物レンズユニットとの間隔を可変調整することで、対物レンズユニットへの入射光束のマージナル光線の傾角を変化させる。また、色収差補正用光学ユニットが回折面を有し、最大の回折効率を有する第2光束の回折次数が、第1光束の回折次数より低くなるように設計される。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 1 4 4 7 5 5

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 3 0 3 0 0 0 4 0 8 ]

1. 変更年月日 2 0 0 2 年 1 2 月 2 0 日  
[変更理由] 新規登録  
住 所 東京都新宿区西新宿 1 丁目 2 6 番 2 号  
氏 名 コニカオプト株式会社
2. 変更年月日 2 0 0 3 年 1 0 月 1 日  
[変更理由] 名称変更  
住所変更  
住 所 東京都八王子市石川町 2 9 7 0 番地  
氏 名 コニカミノルタオプト株式会社